京城日報 THE KEIJO NIPPO 大正五年一月十八日 第三千三號 (一) 十七日夕刊

京城日報

◎即位式二月六日斷行

即位式は國內の關係等より此の上延期不可能なれば兎に角二月六日斷行すべし而かも支那側多數は勸告五國も一度事情を知る時は大反對をなさゞるべしと多寡を括り居れり(北京特電)

◎特使派遣見合希望傳達

日置公使は日本宮中の御都合に依り周特使來朝を一時見合せられたしとの訓令を受け十六日支那政府に傳達せり(北京特電)

▲陸總長見合を諾す

日置公使は十六日午後三時陸外交總長を訪ひ特使來朝延期の我が政府の訓令を傳へ此の際兩國間に誤解を來すことなからんことを希望し陸總長は宮中の御都合とあらば致し方なし大局定まりし後更に特使派遣を討議すべしと答へ會見は短時間にて終れり(北京特電)

◎貴州は未だ獨立せず

貴州來電に據れば省官憲は言明して曰く貴州は獨立を宣言せず軍隊は貴陽を出發して四川及び湖南境界に赴きつゝあり軍官憲は市中に學生團を組織し軍事教育を施す爲め諸種の學校の學生を召集し居れり米及び他の日用品は各種の風說流布せらるゝ爲め騰貴し居れり省城及び貴州は平穩なりと(北京特電)

◎北京挾擊か

北京來電に據れば南支の革命軍は日に益々優勢となり宗社黨も亦長城方面より北京を侵さんとするものゝ如く北京政府は腹背に敵を受けたる形勢となれりと(東京電報)

◎遣支艦隊準備

南支派遣艦隊は出動準備成り命令を待ちつゝあり(東京電報)

◎佛潜艇墺巡洋艦擊沈

巴里來電公報に曰く佛國の潜航艇フォーコート號はカッタローの附近に於て墺國巡洋艦を擊沈したりと(倫敦電報)

◎十七日の貴族院

十七日貴族院にて追加豫算案の質問會を開く(東京電報)

◎露太公御動靜

露太公殿下は十七日夕日光より御歸京直ちに露國大使館に於ける晩餐會に臨ませらる(東京電報)

◎樞密顧問官後任

樞密顧問官故北垣國道男の後任は貴族院議員有地品之允男擬せられつゝあり(東京電報)

◎露國決心鞏固 西山博士視察談

文部省の囑託により露國に於ける染織事業を視察して歸朝せる元日本毛糸紡績會社姫路工場技師長西山工學博士は十三日姫路着列車にて歸姫したり氏は往訪の記者に語りて曰『ペトログラード』を出發したのは去月廿一日であるが途中哈爾賓でミハエロウイッチ太公殿下の御通過あらせらるゝ爲め下車し一列車遲れて出發した戰爭の現狀に就ては新聞紙上に報道せられてあるから詳しくは申上げぬが露國では既に十七歲のものまで召集し初めた從つて兵力は充分であるけれど武器の不足に困つて居る此際日本が出兵しなくても軍需品を充分に供給してもらひたいとは彼の國民の希望である、彼れ冬季を迄りて三月に入れば大決戰を見るであらうが其の決戰地は多分バリチヤと其北方なるドヴキレグス方面だらうと一般に信ぜられて居る、露國人の氣風は一般に大陸的で多少戰况が不利であつても之れがため直に士氣を沮喪すると云ふことはない波蘭を奪られても彼等は地圖を延べて斯んな小さい處を奪られたくらうひなんであるといつた風である近來佛軍が一向活動しないので

▲露國も怪しんで ゐたが此の頃に至りて全く其理由が判つた即ち佛軍は此の上動いて若し一敗血に塗れるやうなことがあれば再び立つ事が出來ないと自覺し持久戰の方針を取つてゐるからであるそして佛國は今春必らず平和會議が開らかるべく其際尙ほ多くの兵力を有するものが最後の勝利者であると信じてゐるのである平和會議に就いては先づ獨逸から露國に對し單獨媾和を勸むるであらうが露國は決して單獨媾和はしないであらう、曾つて戰線に立つてゐる露軍の將校から直接聞いた處に依ると若し我國が單獨媾和をするやうなれば我等は此の銃と劍とを執つて背へ向ふことを辭せないとて居るとの意氣を示せり露軍には此の

▲賴母しい意氣と 決心とがあるからまだ〳〵持ち堪へるであらう又軍需品を充分に供給することが出來たならば大に攻勢を執つて進擊するのであらうと思はれる戰亂中に於ける露國の產業狀態は官營の製造所は勿論其他も晝夜兼行で兵器の製造に從事し民間の工場にありても軍需品の製造に從事して居る併し火藥の製造には其原料に缺乏して非常に困難してゐる先づ彈はあつても硝酸がない、又硫黃がないから硝酸を製造する事が出來ないと云ふ風であるそれから戰後の經濟は何うであるかと云ふと露國は物產が豐富であるからダーダネルス海峽さへ開けば金になるものが多し從つて比較的恢復するであらうが何分物價の騰貴は非常なるので之が爲め又一には

▲政府の施政に反 對して彼の有力なる工業的同盟罷工が起りはせぬかと案ぜられる目下露國で最も拂底を告げてゐるのは化學工業の技師で一般に不足である處へ兵に召集されるから一層拂底を告げる譯である、戰爭の爲に寡婦の多くなつたこと、乞食の殖えたことは著しい事實で若い將校の奧さんが到る處で後家さんとなつてゐるなどは小說の好材料である、乞食も到底政府で保護し切れず民間の慈善團體に委してあるが伯爵夫人とか令孃などの學生を率ゐて之が救助に努めてゐるものもある、自然昨日は日本デー今日は白耳義デーと云ふ風に何々日のやうに慈善會が催される、私は今度政府の囑託を受けて露國に於ける染物と織物との視察に行つたのであるが莫斯科では主として有名な

▲莫斯科更紗を調 べた同地にては染料の不足に非常に困つて居る戰後日露の貿易問題として先づ關稅問題が起るだらうと思ふ、實際關稅金の高いことは恐しい許りで私は日本から洋衣一枚と洋服一着を取寄せたが其の稅金三十圓取られたよ之れでは貿易商も其負擔に堪へまい、日本の生產品で戰後有望なものは毛糸、亜鉛其他化學原料品で亜鉛抔は確によからうと思ふ(大阪支局記者)

◎雲南軍と獨逸人

雲南革命軍中には獨逸人ありとの消息あり是より先き雲南獨自の稅關吏たる獨逸人バベルカは昨年十月頃稅關に是非歸るべき用事ありとて該稅關監督及び將軍等の熱心なる留任勸告をも斥け辭職し支那官憲より米國を經由して安全に歸國し得るやう護證を交附せしも之れを峻拒し

▲道を四川に取り 重慶に向ひ出發せるが二日行程の地點に至りて俄かに護衛の支那兵を追ひ返し踵を返して南下し雲南內地所在の土匪及び革命黨を豫て打合せたる地點に集合し安南境界を攻擊し一時猖獗を極めたるより佛國駐屯軍は三千の兵を派し辛うじて討伐し得たることあり然るにバベルカは其後

▲私かに雲南省城 に歸來し獨逸領事館內に潜伏し居りしことは公然の秘密として世人の熟知する處なり今回彼及び彼の同僚たる獨逸人メフエンス及び墺人フランベラーは又復雲南革命に關係し居るが如く是れが爲め支那官憲は愼重の態度を以て其行動を探査しつゝありと(北京)

◎恩赦百八十名 百十餘名は上奏濟

御即位の大典に當りて發布せられたる恩赦令に對し十七日迄に鮮內各地の檢事並に典獄より總督府司法部に上請し來れる恩赦人員は合計百七十六名にして其內百十六名は既に司法部より上奏の手續を了へしが六十名は上奏申請中又は審議中なりと

十七日夕刊

本紙定價 一部金二錢 一ヶ月金六拾五錢 (郵稅前金)三ヶ月金壹圓九拾五錢 六ヶ月金三圓七拾錢 ▲郵券代用二割增

廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲欄內一行金壹圓貳拾錢 ▲定一行金拾圓 ▲三號活字は二號活字は五號活字の一行は二行は三行の事 ▲特別指定の所は一割增

發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 谷口政太郎
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 編輯用四五番 營業用二三六番 電話番號 振替口座京城三〇〇番

◎政務總監登廳

令兄勝津兼太郞氏逝去の爲め忌引中なりし山縣政務總監は十七日より登廳せり

◎遣日大使延期

周遣日大使一行は我皇室の御都合に依り延期の通告を受けたる結果出發は無期延期となれる旨十六日夜其筋より總督府に通牒ありたり

▲一行引返しか

周遣日大使隨員中吳鼎昌氏等五名の一行は先發として十六日入京、十七日夜內地に向け出發の筈なりしも周氏は我皇室の御都合に依り遂に出發延期となれる爲め其進退に就き目下支那公使の訓電を待ちつゝあるが多分京城より引き返し歸途に就く可しと

▲隨員官廳訪問

十六日夜入京せる遣日周大使の隨員吳鼎昌氏等五名の一行は十七日午前十時支那總領事富士英氏と共に總督府を訪ひ、小松局長の案內にて山縣政務總監以下各部長官を歷訪し入京の挨拶を爲したり

▲一行京城見物

周大使の隨員として先發入京せる吳氏等五名の一行は十七日午前總督府訪問後總領事富士英氏と共に工業傳習所、商品陳列館、昌德宮等を觀察せるが正午は三井物產の招待に依り菊屋の午餐會に臨めり

◎古海參謀長出發

駐劄軍司令部參謀長古海少將は南鮮守備隊巡閱の爲め松浦參謀を隨へ十七日朝龍山發列車にて出張の途に就けるが歸任は二十六日頃なるべしと

◎隊長會議延期

十七日午後一時より開會の筈なりし京城府內隊長會議は一日延期となり十八日開會の事となれり

◎仁川船溜問題

仁川經濟會にては十六日午後七時より仁川俱樂部に於て例會を開き仁川築港工事の進捗に伴ふ小形船舶繫留所問題に付き協議する所ありたるが結局委員會長幹事不日入京し船溜場好適地の內示方を陳情する事に決す

◎仁川舊議員懇親會

仁川商業會議所にては十八日午後一時より舊員の總會を開き引續き新會議所設立發起人會を開き終つて午後六時より朝日樓に於て舊議員の懇親會を催すべし

◎連絡船故障

十六日夜釜山入港の筈なりし連絡船對馬丸は海上風波の爲め途中より下關へ引返したる爲め十七日朝釜山港取消しとなりしより十七日朝南大門發十七日朝京城著及び十六日朝南大門發十七日朝釜山著列車は共に不接續となれり

◎內地郵便物不著

十六日夜釜山入港の連絡船對馬丸途中引返せし爲め十七日朝南大門著の筈なりし內地よりの郵便物新聞等總て不著同夜の便に延引せり

人事消息

▲西脇賢太郞氏(總督府參事) 十六日內地より歸任
▲志賀信光氏(鐵道局參事) 同上
▲加藤小太郞氏(京都選出代議士) 滿洲方面視察中の處十七日朝安東より入京
▲井田安之助氏(同上) 同上

南言北語

北京政府は南方の動亂に大分手古摺つた上に日本特派大使の派遣も見事に拒絕されたから流石の策士連も今頃はオヤ〳〵と面を見合せて居るのだらう▲元來利權を以て日本を釣らうとするなんて第一不都合千萬な仕打だ▲最う日本政府も尻丸事件の樣な手には乘らぬ甘いものを喰はせて機嫌を取るなんて其ら小供にする事だ自己を以て人を律しようなんて烏滸の極だ▲其よりも先づ內部を早く治めねば內憂外患は刻々に迫つて來るよ▲第一袁克定と袁克文との衝突は何うだ今に始つた事ぢやあるまい▲ズツと前から續いて居たのが帝政問題で暗鬪が愈々激しくなつたと云ふ事は御存じかナ▲籌安會は袁克定の主張から出來たものぢやないか其れに克定は一方で克文と仲良しの段祺瑞を擁して新派軍人を作らせて間に勢力を扶植した▲其後段祺瑞を幽閉した克文は籌安會には與らず文官派に擁せられて居るから何處でも同じ事で軍人派と文官派との反目となつて將來は克定と克文とも此の如く大猿の有樣だ▲袁總統が登極して袁皇帝が出來た處で此太子と親王との反目が甚しくなつては何うも將來が思はれてならぬ▲他人の吾々でさへ今から御心配申し上げる次第だ何う考へても支那の帝政は八方塞だ▲イヤ帝政派の連中だつて之れ位の事は知つて居るのだらう▲其處で此の頃策士連が大妙案に頸を捻つて出來たのが斯うだ▲何うも民意だと云ひ乍ら反對が多いのは困るので袁總統の立志傳を小學校の教科書にして小學生から先づ帝政を吹き込む事になつたと云ふ▲して見ると袁總統はまだ三四十年も長生きする積らしい▲日本にも百二十五歲迄長生きする宰相があるからまあ悠々と御相談に及ぶが可からう

醫學博士 室谷修太郎先生述 (萬戶必携の家庭參考書)

家庭衞生及び救急法

最新刊 一名 醫者のくるまで 定價金五錢 郵稅二錢

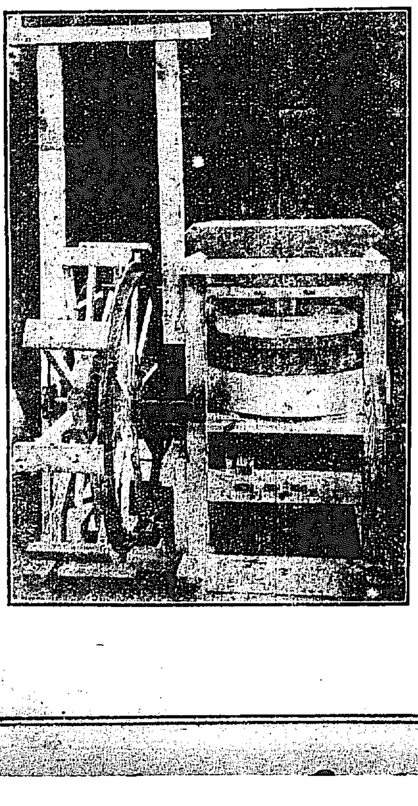
內容 一、個人衞生 二、傳染病豫防 三、凍傷 四、火傷 五、熱病 六、狂犬病 七、中毒 八、假死(人工呼吸法) 種々の假死に於ける平尙喝病、電擊、縊首、絞扼、溺水、埋沒、凍死、毒氣吸入(炭酸瓦斯、燈用瓦斯中毒) 九、人事不省 十、卒倒 十一、痙攣 十二、異物嚥下 十三、外傷、創傷骨折、脫臼及捻挫 十四、家庭必備の醫療具及藥品

室谷先生は本書の冒頭に左の如くお話されました「家庭に於ける衞生及救急法に就ては申上ぐることは仲々に多いが大要を記載することにした、幸に置一讀を賜り各自衞生の保全に勉めらるゝなれば此の上もない、猶豫め知り置かれたとて別段御損にもならない事かと思ふ」醫者の來るまで素人の救急法は本書を置いて他に之れに優るものはない、室谷先生の御話の一端を拜借して萬戶必携の珍寶として江湖の家庭にお勸め致します

發行所 京城大平通一丁目 振替口座京城三〇〇番 京城日報社代理部

特許出願 第五四〇七九號

農家の福音◎籾摺機之革命



本機の特長

◎能力は…從來の籾摺臼に比し其の力四倍以上たる事
◎臼減は…從來の臼に比し耐久力の六倍以上たる事
◎碎米は…從來の臼に比し最も僅少なる事
◎摺上米は…臼の構造に依り自然の光澤を有し品質を良好ならしむる事
◎特約店御希望の御方樣は御申越被下度出來得る限り御便宜を計り御相談可仕候

改良籾摺機 島田式足踏精米機 製造販賣

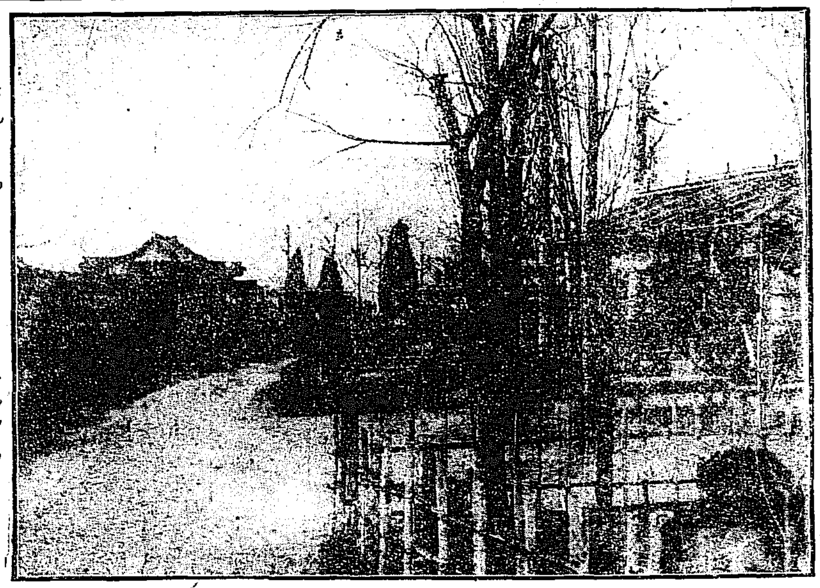
朝鮮瓦斯電氣株式會社工事代理 古河合名會社門司支店代理店 合名會社鈴木商店鹽業部代理店

釜山幸町二丁目 合資會社 小野商會 電話四二五七番

消化と毒けし 仁丹 は正月には是非必要!

■廻禮の時 ■飲酒の時 ■遊びの時 ■觀劇の時 ■旅行の時

金言 功僞は拙誠に如かず………(說苑)



□あたゝか 此頃の午後のパゴダ公園

孫、黄は五十萬元

支那政府の革命黨懸賞捕縛

廣東來信に由れば同省將軍及び巡按使は此の頃革命黨懸賞捕縛規定なるものを發表したるが其の規定に依れば孫文、黄興の何れかを捕へたるものには五十萬元の賞金を與へ且つ勳位に敍し陳其美、李烈鈞、岑春煊、何海鳴、陳炯明、胡漢民、汪精衛を捕縛したる者には各一名に就き十萬元及び勳位を與へ徐秀鈞、黄明堂、朱執信、李根源、非麟、翁式亮、胡毅生、曾貫吾、鄧鏗、劉天嘉の十名を逮捕する者に對しては一名に就き各賞を與へる旨の告示を爲したり

平壤旅團長官舍燒失す

十七日午前五時十五分平壤伊藤旅團長官舍風呂場より出火全燒し六時四十分鎭火せり消防隊及び軍隊出動し見舞人幸入り交り一時は非常に混雜を極めたり損害約一萬圓人畜に死傷なし伊藤旅團長は新幕出張留守中なりき(平壤特電)

銀杏の古木より火を吐く

朝鮮人の迷信

京城竹添町三丁目同部某方の前に年數百餘年を經過したる銀杏の古木あり附近鮮民は古來傳説して同古木の內部腐蝕し居れる中に神ありと稱し常に該木前には種々の供物をなし蠟燭に點火して崇拜する風あり然るに十六日午後十時半頃天を摩するが如き同大木の絕頂より火を吹きたる椿事あり之を發見したる附近の人民は慌くと所轄鍾路署に急報したるより馳せ付けたる警官十數名は附近人民約三十名と共に防火しついで消防隊の出動ありて同十一時過鎭火することを得たり發火の原因詳かならざるも或は右の如き鮮人の迷信より燈明を點火したる火より發したるものならんと然るに尙も不審なるは翌午前三時半頃再度發火したる事なりしかし極力消防に努めし爲め鎭火することを得たるが該木の下に新らしき組一枚を遺棄しありたるを見れば何れ迷信者の遺物ならんといふ

寒夜河中に賊と挌鬪す

光熙門外の追剝

高陽警察署の管轄は京城市の外壁たることゝて安藤同署長は每年末に於ける强盜難の豫防に關し特に大警戒を命じ署員は夜中は網の如く警戒線を張り猫一疋も漏さじと腕を扼して待ち居る折しも十四日廣州郡東北面の嘶賈李正煥朴國瑞の兩名は京城にて松葉を賣り歸路夜十二時頃光熙門外往十里街道に差掛りたるに物蔭より突然二名の兇漢現はれ棍棒を以て兩名の向脛を拂ひ倒るゝところを上より押へ付け所持の金全部を渡さゞれば短銃にて打殺すぞと威し松葉代金二圓三十六錢を奪ひ取り逃走したり然るに松葉賣等は大事の正月錢を奪はれたることゝて之に屈せず何もくと大聲を揚げ追跡しつゝありしを恰も好し同所附近を壯丁二名引率し警邏中なりし往十里駐在所の巡査補閔泰植は此の物音を聞き付け直に現場に驅け付け被害者等と共に賊を追跡し箭串橋河岸に追詰めたるに賊は逃け場を失ひ身を躍らして河中に飛込みたるを以て續て閔巡査補を始め壯丁及び被害者共に河中に飛び込み追跡したるに一名の賊は最早逃る能はずと諦めたるにや窮鼠の勇を振ひ必死の抵抗を爲せし爲河中に於て大格鬪を爲し遂に之を捕縛したり一名の賊は其の隙に流を切つて對岸に泳ぎ渡り逃走したり逮捕したる賊は住所不定韓仁植(三二)なるものにて此等兩名は數日來始興街道其他に於て同一手段にて行商人を襲ひ金錢を强奪したる兇漢なりと

間島の普通學校燒失す

十六日夜十二時過ぎ普通學校事務所より失火し校舍全燒午前二時鎭火せり原因は放火なるべしとの見込なり(間島特電)

大相撲取口評 三日目の

△大蛇潟に九州山 大取組は何んと云つても大蛇潟に九州山であり九州は前日尉に勝つて氣を良くし大蛇又兄弟分たる鳳の復讐戰なれば入念に仕切つて立つや九州の出鼻をイナしたるは大蛇潟に對する失敗に懲りず又此手を拜したるは立合負けの結果止むを得ざるに出でたるならん九州が殘して左を差すに其手を取つて引廻し氣味に顧り込みしは大蛇の強力の勝なるもなほ出足良き九州は大蛇の腹ろに附いて押し進むを美事に叩いて大蛇の勝は大蛇としては巧者なり大方例の名行司勘太夫の授けし兵法ならんか

△寒玉子に鳴門洋 取組は小手調子と相撲の寒玉子に鳴門洋の一組は面白かりき元來寒玉は連日の勝利に益々氣を良くし鳴門が例のお株を奪つて眞向に突き掛かるをイナした途が寒の身上と思ひきや其突出す手を取つてたぐり鳴門の泳ぐを隙さず叩き込んだる早業は其元氣懸服の外なし

△對馬洋に黑瀨川 は當日中の好取組として注目せられしがパツと左四つになり對馬右上手を取るや一氣に吊り出す對馬に上手を引かれては敵するものなしと云はれしが堅實の黑瀨を一溜りもなく提げ出したるは正に關脇の貫祿あり

△固くなつた鳳 鳳は愈々固くなつたり小錦若岩木娘に突き捲くられ時に流し込まれんとしたるは横綱の估券に關す段進びの角力なればこそ打邇りも利きたれ今少し手强き相手なりせば勝敗の數恐らく地を替へしならん之れでは今日の栃木さの勝負も思ひ遣らる元來鳳は守る力士に非ず進んで攻勢を取るが彼の特長ならずや

忘機吟社新年吟會

忘機吟社新年吟會は十六日午後一時より旭町二丁目不知火旅館にて開催來會者は狩野、槐陰、椿堂、鳥石、梅溪、矢山、大華、小芥、白陰、無佛、鯨洋等の十一名各々抽籤にて分韻及び課題を得て即吟を試み詩鐘雅話に時の移るを知らず晩餐後大華山人の席上揮毫あり一同歡を盡して散會せるは午後九時頃なりし

新年試筆品評會

三才書道會の盛況

森雲耶山人の門下生により組織されたる三才書道會は十六日の午後二時から新年試筆品評會を開いた、會場は黄金町二丁目の貴族會館、出席者は約八十人許りの盛會であつた、其の會員は主に大人の男子が多く先づ[illegible]夫人、金令嬢、遠藤令嬢や大木遞信局事務官夫人、亥角令息等の珍客もあつた此の日出席者は先づ各自に席上揮毫を試み猶ほそれくゝ御自慢の元旦試筆を携へて互ひに遠慮無しの批評を交換するなど非常な賑ひであつたが斯くて夕方頃に至り散會となつた雲耶山人門下生は京龍間に二百餘人の多數に上り何れもなかくの御熱心

七十二法と結構法九十二法を敎へ約三箇月間にして卒業する速成法である、山人曰く私の書道は總て文字の天地人と陰陽といふことにつき敎へて居りますが總て文字には一點一畫にも皆天地人の三才を具へて居りますので其の書法を授けて了へば何んな初步な人にも樂に能きます 元來書道には神、妙、高、能とあつて古來の大書家は何れも此の階段の裡に收められますが高、妙などの段に及んだ書家は古來稀らしうございます、先づ日本では弘法大師だとか新羅の金生などで夫れも最劣等の精の部に屬する位ゐで容易の業ではございません 併しこれは書道を學んだ人の多くが何れも皆よく見られたい褒められたいの衒氣に因へられるからで全くの俗氣を離れたものは多く素人の文字に見出します、夫れで書道は素人の雛筆家程有望なので初步の人には往々にして高の部に一足飛びする人が尠くありませんと

江南第一春 九才童 亥角孝

亥角孝君(九才)席上揮毫

この頃の花

京城の街の花屋で賣つて居る活花材料は陽春盛夏の候でさへ多くは下關、山口、廣島あたりから移入するのであるが殊に昨今の寒中では殆んど全部內地から送られる頃日の花屋の店頭に見える花類では先づ椿の一活が十八錢梅一活が廿錢、枇杷が同じく廿錢、優しい草花では水仙が一本二錢から四五錢まで、黄い可愛い金扇花が一錢から二錢までゞ賣られてある又葉を愛づるものではえにしだの十八錢、萬年青の十錢、葉蘭の十錢から十五錢、梅の枝は十二錢、姫枇杷が十錢である、總じて花屋の店は昨今が一番淋しい

懸賣と懸買

片や帳場の問題 片や臺所の問題

(六) 實行の問題

懸賣代金も大分問題になつた、社會の各階級を通じて意見も聞いて見たが要するに▲贊成論者は今迄なぜ早く是れを行らなかつたかと歡迎の意を表し反對論者は實業會の主張する所は好いことには違ない、違ないけれども實行が困難だと云ふことになつて來てゐるそして一體京城の商人間で懸賣取引をして居る其▲總額が何程位あるかと云ふと抑々調査が[illegible]ある假に百萬と百五十萬と云つた金高であつて見れば月末決[illegible]するとせざるとに於て多大の相違が生ずるけれども五萬や十萬乃至五十萬圓位の金であつて見れば餘り騷ぎ廻つて反つて▲商況を沈滯せしめはすまいかと心配する向もある懸賣と云つても種々あるが先づ食料雜貨、酒、米位の取引が最も懸賣を多くして居る所であらう、其實際商業を營んで居る人の間にさへ實行難を唱へる者が多いのはその商品が最も▲日常生活に密接してるといふ關係もあらう、實業會では此案を釘本藤次郎、天日常次郎、唐川立造、古城龜之助の四氏を代表者として十七日に開會された商業會議所の役員會に建議案として提出したが役員は素より評議員の中にも反對者が多いらしいから▲商業會議所が之れを是認して實業會の實行を促すと云ふ斷まで行くか何うかは愈實現の曉でなければわからない其で實業會の計畫も至極結構だが大體の方針を實業會の主張通りにすることゝし實行の出來る店はするし出來ない店は▲從來のまゝで行くとするより外に仕方があるまいとは多數者の一致する説であるらしい最後に靑木商工課長の意見を紹介して本稿を終る曰く『京城實業會と云ふものが出來て懸賣代金の月末回收を行はふと一生懸命に努て居る樣だが却々多年の習慣であるものを一朝にして▲改善し得るとは思はれないが、併し良いことには違ひないんだからして若し此事が實業家各自の努力に依つて實行出來るとすれば此上もない結構なことである彼れ是れ議論の必要は少しもない宜しく弊害の生じないやうな方法で實行に着手したらよからうと思ふ』と

△兩法主吟懷

寄國祝 伯爵 大谷光瑩

民の戶もとみさかえつゝ四方の海にみくにの光りあまる御代哉

歲徵暮

花にえひ月にもうたひゆきに今たのしと思へばとしぞくれゆく

老が世も殘りすくなくなりにけり六十あまりのとしを送りて

かぞふればけふのひと日を今年にてよはひをひとつ又やかさねむ

丙辰新年試筆 大谷派本願寺法主 大谷光演

飛龍の二年勅題かしこ初なぎて

異派の人と香炷きて語る御降り

古風ほのめく京なるに門松減ね

香煙に雪霏々と祖廟初詣

臟器藥の苦乾き知る松過ぎぬ

料理組合懇親會

京城料理店第一種料理店組合にては十八日正午より南山町松葉亭に新年懇親會を開き關係者を招待する由

婦人敬愛會

若草町曹洞宗別院に於ては十八日婦人敬愛會初會式を修行す同日は午前十一時會員殆ど出席の豫定院內に於て禪宗式料理の供養を催し午後二時に至れば高田老師の法話あり終りて大福引を行ひ且つかるた遊等もあり面白く此初會式を行ふ可しと

▲歐洲戰亂勃發以來從來獨逸から輸入されつゝあつた藥品値段の暴騰は最早耳新らしい問題でもないが▲其の後の價格は依然として天井無しの好景氣、物窮すれば通ずの筆法で草根木皮の漢法醫も現はれて來たが洋藥にはまだ立派な自作自給が出來て居ない樣子▲又あれが無ければこれに仕ようと種々の代用品も無いでは無いが要るものは何うしたつて要るといふので近頃不廉くなつたのはアンチピリンだ相な▲これは風邪藥として素人でも熟知した藥品であるが戰爭前に一磅八圓五十錢であつたが昨今では六十五圓の暴騰である▲次ぎにアスピリンが戰爭前の一磅七圓に對して目下約六倍半の四十五圓▲猶ほ又小供虫下しのセメンシ事サントニーネが一オンス戰前の一圓八十錢から十倍の十八圓となつた▲さて又最近に暴騰したのは石炭酸を大將とし戰前一封度入一瓶四十五錢のものが一時二圓八十錢臺であつた處數日前に一躍一瓶四圓五十錢となつた▲これは昨年度の試驗を通過した醫藥染料調査所が愈よ製藥業を大會社にやらせる事となつたので其の原料となる爲めだ相な▲かうなると病氣に罹るのも段々贅澤の部類に入るわけだ

春場所星取表

(○勝●負×分△預)

東の方	一	二	三	西の方	一	二	三
大錦	[illegible]	[illegible]	[illegible]	鳳	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四の海	[illegible]	[illegible]	[illegible]	伊勢濱	[illegible]	[illegible]	[illegible]
對馬洋	[illegible]	[illegible]	[illegible]	太刀山	[illegible]	[illegible]	[illegible]
綾瀨川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	朝潮	[illegible]	[illegible]	[illegible]
栃木山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	玉手山	[illegible]	[illegible]	[illegible]
兩國	[illegible]	[illegible]	[illegible]	大蛇潟	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	金の花	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	浪の音	[illegible]	[illegible]	[illegible]
九州山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	大鳴門	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岩木山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	黑瀨川	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四海波	[illegible]	[illegible]	[illegible]	石山	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鳴門洋	[illegible]	[illegible]	[illegible]	土州山	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大の川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	千年川	[illegible]	[illegible]	[illegible]
龍ヶ崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
源氏山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	八甲山	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	玉椿	[illegible]	[illegible]	[illegible]
逆鉾	[illegible]	[illegible]	[illegible]	柏戸	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	寒玉子	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	小野崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]

勝三十二負二十二 勝十九負二十八

▲謹告▼
皇太子殿下の御台覽を辱ふせし力士浪花簓綾瀨川一行
一人土俵入り並に相撲四十八手七五三弓取りの式まで
來十八日より發場御目見得餘興として貴覽に供し候
本町一丁目(百三十銀行横) 有樂館 開館每日午後六時より

京城學校組合告示第一號
京城學校組合區域內ニ居住スル內地人兒童ニシテ明治四十二年(己酉)四月二日ヨリ同四十三年(庚戌)四月一日マテニ出生シタル者ハ來ル四月一日ヲ以テ就學ノ始期ニ達スルニヨリ右學齡兒童保護者ハ所定ノ入學書ニ戶籍謄本若ハ抄本ヲ添ヘ來ル二月十九日限リ京城學校組合又ハ京城府龍山出張所ニ提出スヘシ
大正五年一月十日
朝鮮總督府府尹 金谷充

商業登記變更
一株式會社平安農工銀行沙里院支店登記事項中大和町支店ハ臨時株主總會ノ決議ニ因リ大正五年壹月壹日廢止シタリ
右大正五年壹月拾五日登記
海州地方法院瑞興支廳
株式會社漢湖農工銀行溌川支店登記事項中變更
大正四年拾貳月參拾日第四回社債ノ內金五拾萬圓ヲ償還シ社債總額ヲ金貳拾萬圓ト變更ス
右大正五年壹月拾四日登記
京城地方法院春川支廳

演藝案內

本町 壽座 電話五七八
十八日替り狂言 稚兒揃曾我成長
前狂言 大序より山川ヶ淵助命まで 切狂言 玉藻前三段目迄

壽館 電話一〇五〇
燕左衛門十七日の出物 松竹梅孝女の仇討(文右衛門)西鄕と月照(駒吉)義民傳(香右衛門)水戶黃門記(むら雲)南部坂雪の別(北海入道)櫻田血染の雪(山本松子)明治の俠客、村正の改心(長講二席燕左衛門)

黄金館 特別大興行 ? ?
琵琶史劇 堀部安兵衛一代記 兒島旭洲琵琶彈奏

有樂館 本町一丁目 電話二六六
●力士浪花簓綾瀨川一行 相撲道の花形として關脇の榮位を占めし身を浪界に投じ一旗幟を建て曾て皇太子殿下御台覽の榮を荷ひ主として力士傳を口演し尙ほ餘興として一人土俵入り及び相撲四十八手より七五三弓取式までを高覽に供し候
◎每日午後六時開館 特等六十錢一等五十錢二等三十錢三等二十錢

御成座 電話二九一
十八日替り名題 一番目 人命犯 二番目 喜劇化地藏 全場
[illegible]

大正館 櫻井町 電話八七三番
一月十三日より特別大寫眞 ○實寫歐米近時畫報 ○奇術ウイツフルさ提家
伊國チエリオ會社最近大傑作 ◎軍事探偵大活劇 覆面のアマゾン(第二プロテアン) 全三卷
◎新派大悲劇 戀の迷 ◎舊劇 宮本左門之助
[illegible]

浪花館 明治町 電話二六〇番
○東京落語三遊派幹部一行
[illegible]

初日以來滿員を繼續せる 大正館の大寫眞 遺憾ながら十九日限り
軍事大活劇アマゾン
新派大悲劇 戀の迷
舊劇 宮本左門之助
◎番外實寫 十二月二日三日に於ける大觀兵式 大觀艦式 御大典之實況

黄金館 黄金町四丁目 電話二六三七
大阪色活動寫眞株式會社滿鮮一手代理店
○一月十七日より番組
[illegible]
堀部安兵衛一代記

▲壽座 十八日替り狂言は稚兒揃大序より山川ヶ淵助命まで切玉藻前三段目迄終にて主なる役割左の如し 畠山重忠、後室萩の方(關三郎)排浦江、村姬(梅若)海老名軍藏、千葉之助(關三郎)鬼王新左衛門、北條時政(梅猿)曾我祐信 梶原平三(光十郎)結城友光、鬼王道三郎(鎌太郎)源頼朝、鷺坂金五次(長太郎)
○○▲壽館 燕左衛門十七日の出物左の如し 義民傳(香右衛門)水戶黃門記(むら雲)南部坂雪の別(北海入道)櫻川血染の雪(山本松子)明治の俠客、村正の改心(長講二席燕左衛門)
○○▲御成座 大正倶樂部十八日の替り狂言は人命犯金十萬二番目喜劇化地藏なり

登錄商標 本椿香油 本舖 大阪 三宅

各宮妃殿下及宮內省御內儀御用之光榮を拜せり
●九條公爵家始其他華族貴顯方御愛用の榮を蒙れり
各博覽會にて金銀牌受領
●注意 二姉人共頭上補なきは僞物
定價 廿錢、卅錢、六十錢、一圓
髮を黑く長くつやを出しさらくとして髮のぬけを防ぎ髮あかつかざる事妙なり

MEP [illegible]

大正五年春 種苗代價表 農園種子 果樹苗木 園藝植物類 山林用杉樹種 農具農書雜貨類

登錄商標 岸田 目ぐすり中の目ぐすり 精錡水

石炭 明治町 村山商行 電話一〇五一

登錄商標 瓢水味淋 專賣店 京城本町三丁目 前田酒店

共同便所に女
[illegible]宿屋に出張臨檢したり何れ鮮婦人の[illegible](二百五十五圓)現金四十八圓を竊取[illegible]へ送られたり
[illegible]殺を遂げたるを附近の者發見し屆出たる際同校小使田中某の現金一圓三十錢を竊取したる爲め本町署へ引致取調べの上檢事局へ送らる

天氣 一月十八日 晴れ後曇り
[illegible]

奉天情信

滿洲經濟不振＝錦州開埠＝立法院の通告＝四鄭鐵道督辨

▲滿洲經濟不振 例年昨今は大豆出廻りの極盛期なるに本年は各地共其出荷大に遲々として不振なるが如し是は最初は本年稀有の暖氣の爲めに土地凍結せずして輸送困難の致たす處ならんと思惟されたるも今や已に輸送可能の期節に入りて猶出荷の不振なるより推せば其源因は他に在る可く即ち昨秋の大豆作は三割減收なること事實にて目下大連に於ける大豆相場が昨年同時に比し寧ろ高値に在るに拘らず猶捗々敷出荷を見る能はざるに徴し愈々其源因の不作に在ること明かなり而して之れが影響として直に輸入の不振を來たし例年舊正月前賣行の好景氣なるは舊暦十二月二十五日迄の間に在りて本年は最早此期間を餘さすことは僅に十餘日に過ぎざるも一向市場の活躍を見ざるが如し要するに本年は滿洲産物の王たる大豆不作の爲めに一般經濟界は大打撃を被り滿鐵會社の如きも其輸送收入に大減額を來たすに至る可し

▲錦州開埠の議 錦州は南滿東蒙の京奉線中の要地にて其商務の發展大に觀る可きものあり且つ日本在留者次第に增加して外交上の紛擾を起すことあるを以て支那政府は寧ろ之れを開放するの意ありて近く其意見を段將軍に徴し來れりと

▲立法院の通告 袁總統の手足たる代行立法院は雲南事變の爲めに折角帝制に傾きたる民心の反覆せんことを畏れ四千餘字に亙る長文の告知書を全國要所に發送したり同書は先づ第一段に共和政治が國情に適せざるより國體變更の建議を生じたる所以を陳べ第二段には君主立憲の利益を陳べ第三段には袁總統の十二月十三日の宣言を載せて帝制後人民の幸福を享くべきを陳べ最後に天下の興亡には匹夫も皆責任あれば各手足の能を竭くして此の昌明の運を成せと結べり

▲支那の禁烟令 支那政府は本年六月末を限りて鴉片を禁絶する旨を全國に布告せり

▲東蒙銀行計畫 財政部は蒙古開發の金融機關として資本五百萬元の華蒙銀行を創設するの意あるが如し右設立の上は本行を庫倫に、各分行を蒙古各地に置く筈なりと

▲四鄭鐵道督辨 近く開設さる可き四鄭鐵道は我國よりは技師長以下を出す可く支那交通部よりは同部の陸夢熊氏を督辨に任命したり

◉關東林業補助

關東都督府は管內の產業發達に每次相當の經費を支出し之が補助奬勵に努め來れるが本年も五年度豫算に其經費を計上し農業及之が附隨事業、水產、林產等にも夫々奬勵補助をなす筈にて就中林業に就ては即時利益を欲する個人事業として到底其の普及發達を望むべからざるが故に大連、旅順、金州三箇所の苗圃に一萬一千圓、地方苗圃二十八箇所に三萬五千圓の補助金を夫々下附し猶保林業事務費其他にも相當經費を支出し且洲內全部に對し約四百萬本の植樹を行ふ筈なるが一昨年潮風の爲めに多大の枯松を出せる大連寺兒溝より西公園に至る間の南山一帶には落葉松、赤楊、山櫨、胡蘿等六十七萬本を栽培すべく既に其の準備に着手せるが三月下旬より四月中旬頃までに大體栽植を終るべき豫定なり關東州にては朝鮮と同じく栽植日を設け一般に此日を以て植樹を行はんとの說もあれど未だ決定し居らず植樹と共に果樹栽培にも奬勵發達を期すべき方針なり(大連)

◉滿產麥粉輸出

大連營口よりも輸出

滿洲產小麥粉は曩に我政府より支那政府に交涉し露支陸上貿易條約に均霑して安東經由朝鮮に向け無稅輸出をなすを得ることとなりたるが我政府は其後更に大連、安東、營口、牛莊の三港よりも滿洲產小麥粉の輸出に關し支那當局に交涉する所あり其の結果支那政府も一定稅率の下に右三港よりの海外輸出を承諾し既に本月十日より其の實施を見るに至りたり實施匆々の事ゆゑ滿洲小麥粉の市價は未だ左したる影響なきも漸次市價の變動と共に日支商業の上に關係を緊密になすに至るべし(大連)

◉運賃引上と釜山

二月一日より朝鮮郵船株式會社同賃銀一割値上實施に就て釜山移入商組合及び雜貨商組合にては四月一日即ち年度替迄延期を願ふべく十五日午後一時より釜山商業會議所樓上に役員會を開き種々協議をなし十七日右延期願を朝鮮郵船會社に提出する事に決定せり

◉東萊鐵礦試掘

東萊溫泉場の西背面金井山麓桂二郎氏所有土地には以前より鐵鑛のある事は噂稱せし所なるが今回帝國大學教授工學博士高莊吉氏態々來釜精細に實地調査せし結果有望なるものと鑑定出來たれば直に手續をなし愈々三月頃より試掘に着手する由なり

あり其中に妊娠七箇月位の[illegible]籠を投棄しあるを附近の者が發見し早速所轄鍾路署に届出でたるより警[illegible]者と共に京城旭町一丁目菊池方の留守中に忍入りブロックコー外七點[illegible]より忍入りたる際家人に發見せられ附近にて同家の者に取押へられて本町署に突き出され取調べの上檢事局[illegible]精神に異狀を來し十五日午前六時頃自宅溫突內にて苛性曹達を飲用し自[illegible]人權水山(一八)は一月十四日午前十一時頃京城善隣商業學校に餅を持ち行き[illegible]貞賢(三九)は外里支那人雜貨商孫貫齋方店頭の朝日一箱及び其他三箇所に於て鮮人用經濟靴二足松板三枚を盗

◉エーレン氏來鮮

米國大平洋材木會社長エーレン氏は曩に渡米中なる澁澤男爵より本邦多數實業家に紹介狀を貰ひ來朝東京大阪は既に觀覽し十五日朝連絡船にて來朝同日釜山市中を見物し十時半發列車にて京城に向へり

◉對馬丸引返す

十六日夕釜山入港の對馬丸は海上風波高かりしため途中より下ノ關に引返したり多分乘客丈十七日朝入港の高麗丸に移乘せしむべし

◉釜山畜產組合

釜山畜產組合評議員會を十六日東萊郡廳內に開催時恰も水源地買收に付き實地調査のため出張せし若松府尹及び關係吏員も出席協議せり

◉尙州通信

忠州原州地方に於て行はるゝ大隊演習參加の爲當守備隊は十四日前八時出發す十一泊の上來る廿五日歸隊の由なり▲農事講習會證書授與式 地主組合の主催に係る農事講習會は昨十三日を以て終了し講習生二十八名(小作人十五名面書記十三名)に對し去る十四日午後二時より修得證書を授與したり同時に始政五年共進會授賞者に對する賞狀授與及び優良面長外南面村寅洙が總督より選奬せられ授與ありたる銀盃の傳達式をも行ひたり當日は各官廳主腦者新聞社支局主任參列式終つて茶菓の饗應ありたり▲郡內等外道路工事 計畫中なりし等外道路一、尙州黃灘間二、尙州より化寧場を經て黃灘に至る三、化寧場より中牟を經て黃灘に至る外三線にして延長十四里十九町は本年內竣功の計畫にて愈去十四日より工事に着手せり▲蓮叺製造傳習會 輸出向蓮叺製造傳習所は郡內外南尙州の二箇所に開催の筈にて二箇所傳習生六十二名一箇所四日間宛開催種苗場より吉原氏出張十五日より開始を見たり▲尙洛間道路工事 工事中の所寒氣甚しからざるに依り作業の進捗著しく目下已に約七分の進行を示し二月末日迄には落成を見るべしとの事なり

◉海賊漁船檢擧

近來稀なる海賊船 不正漁船を脅迫す

昨年以來慶北迎日郡淸河附近沖合を根據として三艘一團とせる漁船が海賊的行爲をなし浩蕩を橫行せし者あり今委細の狀況を記せんに彼等は**憲兵に類似せる軍服軍帽を著し**不正漁船と認めたるものに對しては脅迫を加へ漁具金品等を奪取し被害少なからずとの風評を耳にせる盈德警察署は機を移さず部下を督勵し沿岸を嚴密に捜査せし處去る九日盈德郡管內江口に於て怪しく思はるゝ漁船三艘の入港せるを探知したれば即時巡査下田萬次郎、高橋良太郎外巡査補五名を急行せしめ多大なる苦心捜索の結果遂に主謀者本籍熊本縣天草郡御所浦村當時迎日郡淸河面德城里漁業野崎優(三七)同人弟**野崎一男(三五)以下廿一名**及び多數のダイナマイト類軍服外套等を押收し同時に彼等を拘引したるが調査の結果犯罪の場所は迎日郡淸河白濱沖合(海岸より二里乃至三里)にて客年末より本月八日の夜に亙る前後數回に亙る橫行なりしが主謀者野崎は客年九月中郷里より漁船三艘乘組員二十一名を引率し前記沖合に於いて巾著網を使用し鰯の漁業に從事せしものあるが冬期に至り同海上にダイナマイト使用の漁船出沒するを認め其弱點に付込み三艘共**同是が不正漁船を捕へ金品等を奪取を企てたる**ものにて前記橫行の最終には白濱沖に於て江口居住植木龜三の漁船を捕へ乘組員と漁具一切を白濱に抑留し多額の金錢を提供すべしと脅迫し其場は一應放還し更に去る八日野崎以下二十一名漁船三艘に分乘し管內江口に入港し前記**龜三方に押寄せ金百三十圓を提供すべしと**脅迫し已に內八十圓を交付せしめたり此時盈德署より出張したる龜田巡査は被害者龜三方に於て野崎以下四名の龜三を脅迫しつゝあるを探知し野崎が一部の目的を達し八十圓を受取る處を**有無を云はせず共犯四名を逮捕し**機を移さず碇泊せる漁船三艘に至り乘組員九人を逮捕せしが九人は現場を逃走せしか四方に手配りし嚴重に捜索しつゝあり今押收せし物品は▲ダイナマイト百二十本▲投彈十九個▲雷管五十▲導火線六十五▲軍帽星章付一箇▲カーキ色軍服上衣袴一着▲同上外套一着にして彼等がダイナマイト使用の漁船を脅迫し更に自身等不正**漁業及び海賊的に暴行を逞うせしは近來稀なる海賊船と云ふ可し**

入院隨意(診療夜九時迄) 腎臟病 膀胱病 淋病 梅毒 疳瘡 皮膚病 泌尿器病專門 永樂町二丁目 金光教會隣り 安部醫院 電話四一九番

◉連絡船上陸客

十六日午前釜山入港新羅丸二等客(一等二名)志賀信光、外人二名(二等十八名)吉山長吉、三浦田吉太郎、石阪吉二、永島英悅、曾我部四郎、同みの、岡田鶴、同錦十、佐々木志賀二、同小靜、四脇讓次郎、同みす、中島三郎、同留子、同昇、半田五郎、長尾伊、同たつゑ、大平善次(三等百四十三名)

商況

債券現物特電
東京 十七日出來値段(前日との比較)
東洋拓殖 朝鮮銀行 朝鮮瓦斯 南滿鐵道 [illegible]

公債直取引
東京 十七日出來値段(前日との比較)

五分利特別	九六、二〇
一回四分	八二、五〇
二回四分	八三、五〇
甲五分	九五、一〇

深川在米特電
十七日現在高

朝鮮米	一七一、〇五八
臺灣米	八九、四八〇
內地米	二〇七、一二〇

東京期米特電
[illegible]

大阪三品特電
[illegible]

大阪期米特電
[illegible]

下關期米特電
[illegible]

朝鮮物產特電
大阪跡安 ノ五錢瓦落 [illegible]

雜報
[illegible]

◉石油暴騰す 十六日より內外油共に一躍五十錢方の値上發表し各販賣店は直に之を實行しつゝあるが其結果今日の石油價格は松葉四圓五十六錢、火光四圓四十錢、寶の山四圓三十錢、七十錢値上の原因 今回値上の原因は輸入油の杜絶せる爲めにして市場現在高は非常に減少し…[illegible] **一品薄の聲に輕油は五十錢方の値上** [illegible] 石油の五圓說 [illegible]

◉板硝子は沈靜 [illegible]

◉宗谷昆布の品切 [illegible] 僅に殘品あり

◉七圓內外 出にて今は各自の持品迄 [illegible]

確實 迅速 廣澤平次郎 仁川海岸町 取引所仲買人 電話一六五番 二三〇番

◉明太魚行悩へ 乾明太二十四圓七十錢以下 [illegible] 弛緩の姿に氣配幾分引 [illegible]

◉生鮮入荷す 一回分百二十圓 一回分八九十 [illegible]

◉蜜柑依然不勢 [illegible] 荷餘り勝 [illegible]

下關相場

[illegible]

仁川米豆取引所仲買人 海岸町 三巴仲買店 電話長三一、七九 (三)五八

京城正米

[illegible]

南大門の廻米

十六日分

烏山玄米	九八叺
仁川籾	一一四叺
烏山玄米	一九七叺
烏山白米	二七叺
烏山玄米	九四叺
平澤小豆	八八叺
鐵原籾	二〇二叺
金蔭籾	三〇叺
金村籾	三二叺
汶山籾	一七叺

十七日分

仁川籾	一三〇叺
仁川籾	三五叺
定州玄米	一九六叺
漣川籾	一六〇叺
漣川小豆	四〇叺
長湍籾	三〇〇叺
水原白米	六五叺
小原白米	一八叺
群山籾	三〇叺
金泉胡麻	四四叺
烏山玄米	六六叺
烏山玄米	八四叺
汶川玄米	三三一叺
水原白米	二〇〇叺
烏山白米	一〇叺
平澤白米	八八叺
金蔭白米	三二叺
水原白米	八二叺
平澤白米	二三叺
一山白米	二四叺
烏山玄米	七〇叺
烏山玄米	六八叺
金村白米	六一叺
烏致院胡	六三叺
小井里白	二〇叺
水原白米	七〇叺
汶川白米	一〇叺
金村籾	六五叺
一山白米	二四叺

仁川現物市場

△籾入津昨今五六百俵 氣配變らざる唱へなりし △正米入津昨今千四五百叺 氣配別段變らざる人氣 一昨日稍堅後鮮人側へ本邉合格品十一圓より十一圓二十錢にて**約四千叺**力武精米所へ地掘中括十圓六十五錢より七十錢にて**約千叺の大**商內行はれたり △大豆入荷少なし 氣配變らざる人氣

生魚市場

正月往迷中は商選宴會料理向の需要多かりし爲め生魚は大物小物に拘はらず一般堅調なりしが此四五日來稍々入荷を增加し需給の工合も漸次順調に復し來りしより相場も次第下りとなり本日の出來値は高値より約半額の下落を見るに至り昨今の荷先は發山新浦方面大部分を占め之に昆布鰤の少數等荷ある外元山鯖發の鯔薯ある位なり季節柄として其外鰆類の鰐鯖しく過日來平均三十[illegible]

仁川期米

▲十七日前場 寄十五(大阪)一錢安の入 前日後場引より一錢と一田(?)[illegible]前場寄付先物二十錢安に寄付たるも大阪四節〇八錢と安移りに **五節十四圓九十七錢と臨時暴落入電** 物多く四十六錢まで押したるが三十九錢より八錢と迄りたる押目と見たる買物多く四十一錢と返したるが**大阪六節九十一錢と更に安移り**なりに引返し三十九錢まで不勢の散會

[illegible]

市場零聞

△前場の商戰 [illegible]

△前場瓦落す 大阪の變らざる入電に十一圓五十一錢と寄付三巴(?)[illegible]…其他賣にて**大阪暴落の入電**に**三十八錢と瓦落**し

◉鮮人の思惑買に强硬 [illegible]

△前場下押す 一昨日大阪の跳ね返しに連れて十一圓五十四錢迄跳ね返したる仁川期米は今前場大阪の暴落に連れ十一圓三十八錢迄瓦落したり偶るに大阪の十四圓九十一錢な[illegible]

(吉) 仁川海岸町 行實仲買店 電話長九二一番 一四〇二番 振替京城三三一番 電略ユキ

△稍々下げ澁り [illegible]

感歎派の重鎭分店主の旅行中にて突込賣り來る手口なきと一面押目は買物多き爲めならん

△依然大保合乎 一時跳ね返したるも今前場大阪の瓦落を受けて瓦落を演出したが要するに米大保合を脫出はせざるべし此漫に斯る成行を繰り返すには非ざるなきか當地は前項の如く正米界に於て鮮人の思惑買起り日々買取り居れるより大阪の**下値は買物**如何に拘らず**多く賣方も警戒**して賣らざる體にて目先大相場の顯出は望まれざる者と思はれるが前途は正米の狀勢大阪の成行に依り大變動あるならん

仁川米豆取引所

十七日の三月限

前場	寄附	十一圓五十一錢
	止メ	十一圓三十九錢
	高値	十一圓五十一錢
	安値	十一圓三十八錢
	出來高	二萬八百五十石

平均値段	
一節	十一圓四十九錢
二節	十一圓四十錢
三節	十一圓四十錢
四節	十一圓四十錢
五節	十一圓三十九錢

賣買取組高

一月限	二百石
二月限	七千四百五十石
三月限	二萬九千五百五十石

十五日後場出來値比較前日と比較

二	一二五 一安
三	一二五 四安
四	一二五 三安
五	一二五一 一安

北濱だより

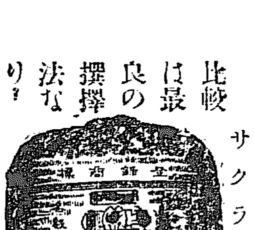
昨今の如く出來高の減少しつゝある其原因の那邊にあるかは問題にして盛者必衰は人世の常なれば別に云ふにも足らざれど昨今の如く相場の高低は材料の有無に拘はらず非常に特殊の手法を用ひて仕手の引退すると云ふが如きは何れにしても不思議の現象にして斯くの如き原因を直に察し得ずと云ふはならぬのであるが或は一部の人々に於ては各仲買店が多額の思惑證を要求したり若くは新規注文を謝絶したる爲めが大原因であると解して居る處ではあるが成ほど是等も其一因には相違無からうが夫れが市場閑散の最大原因では決して有るまい某々仲買店の如きは謝絶もせねば從來通り客注を引受けて居るも客は頗る閑散で有ると稱して居る然らば別に有力なる原因が無くてはならぬのであつて先づ手明節も有れど當中期限の新玉が出る頃は多數であつて當限は十一萬株の中限は十四萬株の買株が存して居るの多數で市場が閑散で出來高が少なる頃株の繋ぎで有るだけに此つてな喰めて居る者もあろうの解消化如何が疑問でるとは云ふのが至當であるが整理中であると云ふの處は消化時代即ち整理中であるで此整理は値頃次第で解決すべきか題で其値頃も低くなつたのであるから最早下値は無しからうと思ふのがあるが何分にも日々の不安材料には自然厭氣の念慮を生ずるのは當然であつて今朝の如きは小口ながら是等手詰玉の類出と歐派の賣物に對して利食の外に買物なく石油株が除きは東新當株を始め商船の新株も亦是投げ崩しを演じたるも非もな[illegible]

一定期賣買の媒介 一現物賣買の媒介 一報次第御送附可申候 田中(全)商店 電話長一六二八番 二五二番

眼科內科 小兒科 入院隨意 京城黃金町三丁目赤門通(電話二四四三番) 院長 本田建義 本田醫院

直輸入元 酒精アルコール 仁川花町(電話六五〇番) 坂倉伊平商店 電略(サ)振替口座京城五八二番

比較は最良の撰擇法なり? サクラ正宗 サクラ正宗



京城明治町一丁目 山邑京城支店 電話八四九番 振替京城五七番

贊化病院 京城本町二丁目 電話二四一番 入院隨意 普通病室並隔離病室 院長 醫學博士 古城憲治 尿。便。血液。喀痰等臨床的檢査の依賴に應ず(每日五名を限り無料施療す)

金牌受領 上酒壹升に付四拾錢 清酒味醂燒酎 釀造元 京城櫻井町一丁目 中井酒造場 電話百七十七番 御用命は特に割引可致候

諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候 株式會社 十八銀行京城支店 京城黃金町 電話四二〇番 五八一番 振替貯金口座京城八二四番 同 龍山出張所 龍山地橋町 電話一八番

貯蓄預金 元金百圓ニ付日步壹錢四厘 金壹錢以上何程ニテモ御預申候 株式會社長崎貯蓄銀行代理店

入院隨意 京城永樂町二丁目(商品陳列館裏門通) 酒井婦人病院 電話二六〇番

東京竹內製 ベンデング式金庫

詳細目錄進呈 竹內製金庫朝鮮販賣店 熊平支店 京城本町一丁目 電話四六二番 振替京城二三一番

金は大部分銀行に預けてあるから火災に遭つても大丈夫と云ふ人がありましやうが肝腎な債權債務が明記してある帳簿には火災保險が付きませんそこで一番必要なのは 帳簿に保險が付きますか

京城旭町三丁目(元十全病院跡) 小兒科專門 內科 若槻醫院 電話二三六三番 ドクトルメヂチーネ 若槻寬隆

豫報

十七日正午 京城測候所 最高溫度 攝氏 廿二度四分 最低溫度 攝氏 〇二度 [illegible] 氷點下五度九分

十六日(かのえ丑) [illegible]

汽車 [illegible]

越後大評定

第百三席　早川貞水口演

渡邊、關根の邂逅

病中の九三郎、早くも弟左門が殿樣の御手に掛りしと聞き、動搖足を踏締めながら『殿樣の御手に縋り九『何卒弟の微忠を思し召され、御止まり下されたく綱『ア、見苦しい』病中亂髪長髪の身を以て、予に近接くとは、主從の禮を知らざる無禮者退がれ……退がれツ九『其儀は恐れ入る次第なれど、殿樣御身の上には替へられず、推して罷り出でたる段御諒察下され、百々の忠言御取り上げの儀、偏へに願ひ奉る綱『エイ見苦しい此留間、正木の兩名、斬り捨て與へ『心得まして御坐る……渡邊氏御無禮で御坐らう』と云ふと、此處へ拔き討ちに斬り倒す、茲に果敢なくも兄弟は忠死を遂げました、屍骸は沈みを付けて、水門の彼方へ投込んだ、『船を消めよ』と仰しやつて、其儘ズツトと吉原町へお出掛になる斯程の忠臣を御手に掛けられながら何の苦もなくお通ひになる、此方は渡邊九十郎、泊を重ねて漸次進んで參り、日坂と掛川の間、宮村といふ所へ來ると、此處には本多八幡の宮が御坐います、常進といふ從者が、『旦那樣、此度御代參あそばすのが男山八幡、この御社も本多八幡宮御參拜なされたが宜うございませう』九『成程それが宜からう』と、是で本多八幡宮へ來て、嗽口手水を致し拍手を拍つて、主家の安全、武運長久を祈つてゐると傍に來た一人、ポンポーンと拍手を拍つたから、不圖目を擧て見ると御國表の關根彌二郎

九『關根先生では御坐らぬか九『イヤ是は〳〵不思議の處で御坐る彌『イヤ貴殿は又不思議に此東海道へ、如何なれば御通行で御坐るか九『實は此度若殿の代參にて、京都男山八幡へ詣るもので御坐る彌『それは御苦勢千萬、拙者は先程國表に於て、惡人小栗美作はじめ、殘らず斬つて立退かうと存じたる所、殘念ながら十三人は手にかけたるも第一の張本人さへ見做す、美作を逃したるにより、一度は越前黒木村へ身を寄せ、容子を窺ひ居りましたが、併しながら何日まで引籠り居りては、御家の容子更に相分らず、依つて此度京都大阪へ立出で、是よりは江戸表へ乗り込み時を計つて美作を斬つて落さん所存で御坐る九『ハア左樣で御坐るか、これば御誠忠のことで御坐る、其事に付けても、近頃若殿三河守殿、惡人の勸めに依り、新吉原へ御通ひ、先頃御水門の處にて、御意見を致しましたが、それがため其後はお愼みの樣子で御坐る、併しながら拙者の留守中、果して如何あらんかと、心配の至り、貴殿江戸表にお出掛の節は御老臣方へ此事御打合下され、若殿樣御身の上を御守護願ひたい』彌『委細承知いたした、イヤもう相變らず渡邊氏の御誠忠感服の至り、然らば此方、一旦江戸表へ參り、御容子を窺ひ、御老臣へ此事を申し、貴殿の御芳志の程も御披露いたすで御坐らう九『何分とも宜しく、然らば甚た殘念だが關根氏主命を蒙りたる身の上、急ぎますれば是で御分れを彌『イヤ隨分御道中、御身の上を御大切に御盡さう所存り申す九『エ、忝けない、貴殿も是より江戸表へ御出の身の上、隨分御健固に彌『然らば渡邊氏九『關根氏彌『御別れ致す』。

一月十九日九星　舊十二月十五日乙卯　本命七赤　酉　滿　友引

▲七赤●●突飛なる議論多き日新事見合南方は吉喧嘩口論▲八白●●大損大當の日轉居開業入學名弘普請求職婚禮入寄贈等凶吉▲九紫●●殘りおしき事有れども手控者は吉女難おとし物用心の事▲一白●●利潤の日轉居入學金談求職棟上婚禮定期取引吉▲二黒●●昇り日男子は職に就き女子は案外の良縁を得る萬事で吉待人來る▲三碧●●不運の日なれども新事控目の方吉[illegible]は妨なし▲四緑●●買かふりの事有り新事手控者は吉新取引は用心せらるべし▲五黄●●親の舞込日轉居入學金談名弘求職縁組普請[illegible]吉▲六白●●同情多く萬事の決斷を成就す西北で吉女子は一層よき事有

□上代の衣服の飾　紐の由來は頗る古く、神代の玉の緒はたゞの糸であつたか組糸であつたかは明かでないが垂仁天皇の時には既に細小刀と云ふ物がものに見えて居る、上代の衣服には紐を以て飾としたものが多く、平緒、組紐、名も古くから散見するところである、西洋服の輸入は明治十五年で品川忠道と云ふ者が始めて十六組の打紐器械をアメリカから輸入し京橋三十間堀に製紐會社を設立した、其打紐の需要と共に續に隆盛に趣いたのである

徳富蘆花譯述　探偵異聞（第三版）

▲定價金二十五錢　▲郵税本社持

○巢鴨の奇談○うらおもて○蔑藥○雲がくれ○秘密條約○大隱謀○まかつみの七編にして凡て外國探偵小說中の粹を拔き之を譯するに蘆花氏得意の妙文を以てす波瀾萬丈人物出沒の奇一讀魂飛び神飛ぶの思あり蘆花氏の著書中全く色彩を別にしたるものにして亦以て著者の多趣味多方面の筆致を窺ふに足る可し　京城日報社代理部

家庭の絶好讀物

徳富蘆花著　**自然と人生**　定價二十五錢
身を自然大化の裕懷に投じて、靜寂の裡に一新せんと欲する者は、試みに本書を一讀せよ。自然を美化し、人生に慰安を與ふる者未だ本書の如きは非ざる也。收むる所、小品文、自然に對する五分時、寫生帖、湘南雜筆、風景畫家コロオ、百餘章。

徳富蘆花著　**青山白雲**　定價二十五錢
自然の美を描き、人情の奇を吹ふ清麗なる美文詩也。收むる所、漁師の娘、恐ろしき一夜、國出律村、夏の夜話、政虎游城、上國の使、水國の秋、防はぬ夢、夏の山等あり。文は何れも晶の如く、讀み行くうちに自ら其中の人となり、悚然として己が茲にゐるの感あり、眞に天才的傑作也。

徳富蘆花著　**不如歸**　定價四十五錢
日本唯一の家庭小說にして、既に百三十版を重ねたるにて其の眞價を知らるべし。伊香保の[illegible]「浪子の[illegible]」[illegible]ステーション[illegible]讀む者涙なくして讀むに堪へず[illegible]と。

徳富蘆花著　**青蘆集**　定價二十五錢
先生の文を讀む者、必ず一種の靈氣を感ず。是れ其の想の高潔にして其の調の[illegible]なるに依る。本書は筆力最も[illegible]たる先生の小品文を集めたるものにして、[illegible]

[illegible]譯著　**獨探日記**　定價金五十錢
最近歐米の讀書界を賑はし、天下の大評判を博したる大奇書にして、獨逸に於ける名家の一子が波瀾曲折を經て間諜となり、カイザーの爲め、獨逸政府の爲め、世界の平和を[illegible]する秘密を暴露せる小說以上の好讀物也。

早川貞水講演　**赤穗義士**　定價四十五錢
最も尊ぶべき資料を基とし、貞水獨得の快辯を以て、日本武士道の精華たる四十七士の面目を躍如たらしむるもの、平易通俗にして而も壯烈悲壯なる言句、人を[illegible]して[illegible]ならしむ。各階級家庭の好讀物たるを疑はず。

伯知・如燕講演　**御前講談**　定價七十五錢
近世講談社會の雙斗たる故松林伯圓、桃川如燕の二氏が、曾て辱くも、先帝陛下の御前に於て口演したる[illegible]、楠正成、鳥居強右衛門、山内一豐の内室、太閤中國引返し、伏見[illegible]、木村長門守、中山大納言の八題を收む。

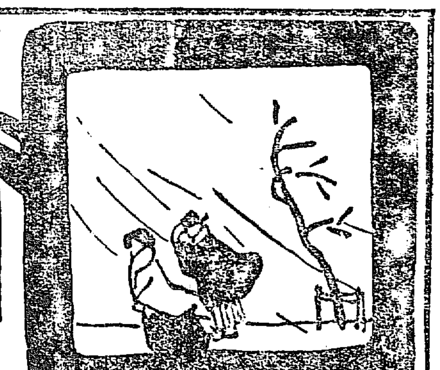
山路愛山著　**乃木大將**　定價八十五錢
[illegible]

村上浪六著　**八軒長屋**　定價二圓五十錢
是れ一種の人間學也。歷史小說にあらず、新聞小說にあらず、實に浪六氏一流の面目を發揮せる人間學的小說也。千卷の哲學書も之には及ばず、[illegible]

▲郵送料本社負擔▼

發賣所　京城太平通一丁目　京城日報社代理部　振替京城三〇番　電話六六〇番

寒風や守妙のんで恙なき



守妙こそ身のあたゝかみや雪の道

雪の夕に霜の朝
今日此頃の寒空に少しも寒さ覺えず
無事息災の身の上と喜ぶ妾の此体も
皆日頃より缺さず服用する
守妙（守田の妙ふりだし）の
賜物なり
されば風邪、發熱、痰咳
其の他冷込より來る婦人の諸病に
惱み給ふ人々は片時も離さず
明日と云はず今より直ぐ召し上れ
今が守妙を服用する
最も肝要時!!

●油斷大敵　風邪は萬病の本
四季の引風、發熱、痰咳、婦人血の道、逆上頭痛、寒さあたり、冷え込、婦人氣鬱性等に奇効あり其の他逆上性の人、氣候激變の時に際し常に服用せば風邪、血の道、冷込等を未然に除く！在來の丸藥、散藥等の熱さましは往々副作用を起す危險あるが故に、最も安心して服用の出來る天下唯一の奇効ある守妙（守田の妙振出し）を早速試みられよ

定價　試用　一貼金五錢　二貼金拾錢
徳用包　六貼入金廿五錢　十三貼入金五拾錢　二十八貼入金壹圓　六十貼入金貳圓
○全國各藥店に取次す

賣藥　東京上野池之端仲町二十七番地　寶丹本舗　守田治兵衛　振替東京二九八五番

京城日報

十八日朝刊（第三千三號）

本紙定價　一部金三錢　一ヶ月金六十錢　▲郵税共一ヶ月金七十錢
廣告料　▲五號活字一行金七拾錢　▲所指定一行金壹圓
發行兼編輯人　奧田直
印刷人　卷口政長
發行所　太平通一丁目　合資會社京城日報社
電話番號　編輯用　長三四五番　營業用　長二二一四番　振替貯金口座京城三〇〇番

總督の訓示と鮮人の覺悟

十二 水産の前途（續）

朝鮮の水産業は今や如上の如く發展し、一漁船の所得は當初朝鮮人平均二百八十二圓、內地人平均八百十九圓なりしもの、大正三年に於ては朝鮮人三百三十六圓、內地人一千五十五圓に達し、副業及び貯蓄の奬勵と共に漁民各戶の經濟は日を追うて其面目を改むるに至れり

然れども此の狀況を大正三年三月刊行に係る農商務省水産局水産統計に依りて內地の其れと比較するに平均一海里に對する鮮內の漁業者數は五十一人強にして、內地の百十九人弱に較ぶれば未だ二分一を出でず、又漁船數は僅々四艘弱にして內地の廿八艘強に比すれば實に七分一を越さず、殊に鮮人漁業者の一漁船當り漁獲高は在鮮內地人漁夫の一漁船當り漁獲高に對して漸く三分一弱に過ぎざる狀態に在り。之れ朝鮮人の漁業、尚ほ未だ幼稚なるを示すものにして現在朝鮮人の使用する內地型漁船は單に三千餘艘に止まり、在來の朝鮮型漁船は尚ほ一萬四千餘艘を存するが如き斯業の將來は綽々たる開發の餘地あると共に改良進步を要すること多大なるを證して餘りあり

近時當局の勸奬に依り內地人漁業者の移住するもの大に增加し、大正三年末に於ては二千二百餘戶、七千七百餘名を算せる而已ならず、將來益々增加の趨勢あるは喜ぶ可き現象にして斯は卓越せる漁業者を增加すると同時に、一方朝鮮人漁業者をして其進步せる漁法を實地に目擊又は習熟せしめ、鮮人水産業の改良上に與ふる效果鮮少ならざる可きを信ず此際內地人漁業者は益々進むで鮮人從業者の指導誘掖に盡し、朝鮮人漁業者亦之れに賴り之れに倣うて以て努力一致、無盡の寶庫を開拓するに遺憾なきを期せざる可からざる也

朝鮮の水産物は內地人の增加と朝鮮人生活の向上とに由り、今後益々其需用を增加す可く、殊に隣邦支那には無限の需用ありて鮮內より直接支那に輸出せらるゝもの、外、內地移出品中、乾鹹魚、乾貝、乾鰕、鯣、鮨並に海蔘等は大部分支那に輸出せらるゝものにして、此等支那向輸出品の總價額は現下に於いても優に二千數十萬圓に上り、且つ支那のみに止まらず歐米輸出品として好適のもの亦鮮からず、就中海蔘、寒天、鯣、乾貝類、乾鹹魚、貝類罐詰、蟹罐詰等の如きは大に矚目に値す可し

然れども鮮人の水産物製造事業は未だ舊來の慣習を脫せず、簡易なる鹽乾魚製造のみを以てして尚ほ其製造拙劣なるが爲め品質、色澤共に不良にして長日月の貯藏に堪へざるもの多く、從つて其價格極めて低廉なるのみならず當用の範圍甚だ狹少なり、漁業の發達と共に水産製造方法の改善進步を圖るは價格を上騰し販路を擴張する所以にして洵に焦眉の一大問題たり、當事者豈勉めざる可けむや

支那の鐵道（十一）

粵漢鐵道（英獨佛の飛躍）

米國開拓會社が追加的協定の運動を始むるに至りし其の意味は、京漢線の權利者に賦與せられたると同一の條件を獲得せんとするにありき。運動の結果會社の要求せる條件に少しく變更を加へて追加協定の成立を見たり。此は一九〇〇年の事に屬す。新契約の重なる規定は、粵漢鐵道の竣工を三年より五年に延長せること、借款の金額を八百萬磅に增加せることなり。此他同社は此鐵道の敷設權を自國（即米國）の第三者に讓るの權利を得たり。尤も此契約を他國又は他國人に讓渡することは禁ぜられたり然るに斯くの如き規定なりしにも拘らず、一九〇二年には佛山を經て廣東より三水に到る延長線工事の開始せられ翌年末には三水まで達し、約三十二哩の開通を見たるの際には米國の開拓會社は其の性質を豹變して殆んど白耳義人の會社となり居るの觀あり、之れ會社が追加協約の規定に背反して白耳義人に權利を讓渡したるが爲めなり。會社の背信に對し物議を生じ、其結果一九〇四年には米國人再び會社の司配權を握ることゝなれるが、其後會社が該線路の敷設を多く欲せざること明かとなれり。蓋し會社の欲する所は敷設權を支那人に賣戾して之により出來る丈け多くの利益を收めんとするに過ぎざりき。謂はゞ敵本主義に外ならざりしなり。而して僅か三十二哩の線路に對し支那政府は米貨六百七十五萬弗を支拂ひて世の物議を避くるの必要に迫られ、政府は右の金額を一九〇五年香港政廳より借入れ、之を米國會社に支拂ひ該鐵道を自國の手に引受くるに至れり。

米國會社が手を引くや直ちに支那は自から此の鐵道の工事に着手し約四千万弗の資本中二割弱の拂込資本を以て會社を創立し約五十四哩を建設するの權利を有したりと雖も三水以北への工事は未だ進捗を見ず、湖州府まで達するには尚百四十基米を剩せり。一九〇六年英佛兩國は粵漢鐵道に關して協同の行動を執る事を約し、即ち適當の擔保なくば該鐵道の敷設に要する資金を貸與するなからむ事を協定せり。而して支那政府も亦英佛資本團の條件に應ずることを好まざりしが此時に當り獨逸の資本家は支那の自尊心を傷くる事なく、其の體面を保たしめて資金を貸與し、支那亦之に應ぜんとするの色あり、之を看取せる英佛資本團は形勢の不利なるを覺り、獨逸資本團と其本國に於て交渉を開始したる結果英獨佛三國の間に協定を見るに至れり。

蘇峯文選を讀む

鐵骨生

蘇峯文選出づ。是れ德富猪一郎氏が明治十九年一枝の力を借り『將來之日本』を著はし洛陽の紙價をして高からしめたる青年時代より、大正四年に至る三十年間に公刊したる文章中より其の最傑作を選擇して編纂したるものにして蘇峯全集より云へば或は其の十が一にも當らざる可しと雖も尚ほ千四百頁に餘る厖然たる一大冊なり、而かも一たび之れを繙けば讀むものをして其の樂を知つて其の倦むを覺えしめざるは何ぞや、是れ其の內容材料甚だ豐富にして趣味亦多方面に亘り、錦想繡思行ふに綿繝婉約の筆を以てすればなり、其の經國濟民の大論文は蘇氏の策論を讀むが如く、其の內外人物の月旦は金聖嘆の三國志、水滸傳を讀むが如く、其の紀行文は柳々洲の文を讀むが如し、其の純文學の作物に至つては蘇峯謙遜自ら居らずと雖ども、其の敍事、平淡流暢なる以て後世の文範となすに足る、往年蘇峰、羯南、翔南と並び稱せらるゝや、蘇峰氏の文章は細膩批評に長じて滋味あり、羯南の文章は精嚴說明に長じて醎味あり、翔南の文章は深刻雄辯に長じて辛味ありとし、世人一般も亦之れを聞て首肯したる時代ありしも、是れ十數年前に於ける蘇峰の文章を評するものにして老成圓熟行く所として可ならざるなき今日の蘇文を評するものと云ふことを得ず、假令翔南をして今日に生存せしむるも恐らくは決して蘇峰と鑣を駢べ鹿を中原に爭ふの敵にあらず、明治の文壇に於て其の名特に傑出するものを擧ぐれば故田口鼎軒、故藤田鳴鶴、矢野龍溪、末松青萍、純文學の泰斗として故尾崎紅葉、幸田露伴氏等ありと雖ども、彼等の文壇に勢力を張り世人の欣仰する所となるは或る一時機に過ぎずして其の能く十年の名聲を持續したるものは甚だ稀なりとす、況んや蘇峯の如き三十餘年の久しきに亘りて其の精力少しも衰へず其の文章益々時人の尊重する所となるを乎、是れ何によつて然るか、蘇峯私行方正謹嚴勉強未だ曾て一も酒色に近かず、讀書を以て一日も廢せざれば也、嗚呼是れ其の一事以て好範を後世に示すに足る、又況んや蘇峰自ら謙遜一予の言ふ所の目的は所謂對症應急に在りて聞より百般の必傳を期せずと云ふも其の大作小品悉く精金美玉ならざるはなく收めて以て千歲の珍寶となるに足るものなるに於てを乎、特に蘇峰の文章は入り易くして又學び易く假令ひ學んで成らざるも所謂虎を畫いて成らずして却つて犬に類するの患なければ青年の文範として最も上乘なるもの也、往年ジヤパンタイムスの通信員として、ジヤパンメールの記者として我が國に在留せるブリンクリー、日本の文學中にて最もポピユラーなるものを翻譯して之れを英國人に讀ましめんとて其書籍を選擇せしことに、之を譯せしめ一讀せしに、彼は其千篇一律の戰爭記事に愛想をつかしたりとの話あり、故福澤諭吉氏は教育家として新聞記者として成功者なり大隈伯は政治家として現內閣の首班に列し共に其の文章策論世に公刊せらるゝもの少からずと雖ども之を蘇峰に比すれば殆んど論ずるに足らず特に其の材料の廣博多大なるは之を古今未曾有と云ふも決して溢美にあらざる也されば吾輩は政治家も教育家も宗教家も實業家も學生も之を購ひ之を讀んで机上の師友となさんことを勸告す其の途を得るものゝ益し多大なるものある可し吾輩は豈に自ら其の好む所に阿つて世人を欺かん乎（定價三圓五十錢 送料二十錢 東京日吉町民友社發行）

放浪漫記

大谷光瑞

十二月十二日日本郵船賀茂丸にて上海を出發致候、同日は天氣快晴長空纖塵無く、和風北より來り、頗る溫厚にして快適を覺え申候、前三日來何南及び江北に在りし高氣壓、漸く衰弱に趣きし結果にて、此が爲め臺灣海峽も北東信風の威力稍減退し、海路平穩、十五日未明香港々外鯉魚門水道の附近に到著致候、香港官憲の嚴なる旅客檢査を受け、漸く十時頃入港致候、旅客檢査は、獨探及び印度革命黨の潜行に對するものにして、我邦人には頗る寬大に御座候、香港は今正に好時期に入れるを以て、一碧の晴空と駘暖の陽光と相待ち、我邦の四月下旬暮春の候と異ならず、花卉は甚だ多しと雖も、秋菊正に闌はにして、黃白妍を鬪はせ、蘆花哀柳のみなりし江南より來れば、目を悅ばしむる事大にして、加ふるに萬卉皆青く、遊子の心情を怡適仕候、

今回は停泊二十四時間なるを以て、十六日正午出發南行致候、船萬山列島を過ぎてより、風浪漸く高く、日を逐うて猛威を加ふ、昨年この季節に伏見丸にて航海せし時も、北東信風の優勢に惱みしが、今回も決して昨年に異ならず、或は優勢なる高氣壓の北支那に現出し、長風萬里南支那海の浩波を鞭撻せるによるか、將又高氣壓出でざるも猶猛威を振ふや、其孰れなるを知らざれども、風速は、ブユーフオート氏表の七を普通とし時に八を越ゆる事あり、風位は北々東なりとす、南行日を逐うて暄暖を加ふと雖も、北緯十度の邊よりは天氣密雲時に微雨を雜へ、爲めに烈日暴暖を見ず、船長淸水氏は北東信風を利し二十日薄暮シンガポールに入港せしめんとの意見なりしが、風順なれども潮從はず、漸く午後十時港外に假泊せり（北緯一度十二月廿二日新嘉坡にて）

京日詩壇

○歲暮東友　成田魯石
流光彈指夢忽忽。不待人間歲欲窮。五十二年空浪跡。三冬九夏儘彫蟲。憶君最憶消息。忘我都忘時變通。島佛應隣詩作累。祭魚獺在小齋中。
評曰　接落自然。委婉入情

○同上　齋藤三寅
一身輕似雪花輕。脫却人間利與名。鼓磬中追儺鬼。笑揮吟筆報平生。
評曰　坦率可味

○同上　高田小芥
酔餞窮年忘是非。悠悠日日掩山扉。中睡足了詩債。夢裏逢君得句歸。
評曰　名奔利走之人豈知此境乎

○同上　西田白陰
十年如夢少同盟。光化門前細柳營。洌北風殘朧裏。蕭然撫劍憶吾兒。
評曰　無限情思

○乙卯除夜　村上石城
琴書爲友避塵煩。老惜稜稜酒滿樽。不管山堂年欲暮。梅花下弄兒孫。自憐傲骨不逢時。心事悠悠對酒巵。一醉陶然燈火下。推敲未就餞年詩。
評曰　隱遯之狀。風流之意。寫得太佳。

○同上　齋藤三寅
俗塵堆裏不堪忙。世路崎嶇感更長。我山妻徐勸酒。炊房貯得一冬糧。
評曰　忙中得閒筆。可羨可羨。

○同上　西田白陰
獎忠壇下翠松隈。烏兎匆匆已十回。劍未能伸宿志。何堪歲晚暗愁催。
評曰　沈痛悲壯。

○時事　齋藤三寅
萬里長城落日昏。黃河濁水空流經。論策人在說國。憂無憂國論。
評曰　沈鬱悲慘

○推致遠　松田學鷗
鳳雛張翼遠翺翔。鳴近大唐天子牀。帶金魚恩寵重。筆耕桂苑花香歸。忍伍豺狼族。遁隱空披蘿衣。隨處名山題壁遍。海東千古仰奎光。
評曰　近六朝風。好箇傳贊

日報歌壇

○鮮銀の前で　龍山　岡本烏石
本町のどよめきを出てふと仰ぐ夜の鮮銀のおほひなる哉
我がせをふ重き荷物も悲しかりふと鮮銀を見上げけるとき
ゆきかよふ電車の音におどろきてむぐらの如くあゆみけるかな
四方にたつこのいかめしき建物に心しづみてしばしたゞづむ

□冬　京城　きよし
怖ろしき暗示なる哉枯草の上に冬の日光る墓場中

□妣の國　京城　鈴木吉郎
口つぐみあはれ御母其のまゝに歸らずなりぬ十二月一日
御母の夢をぞ昨宵は見たりしと泪ながらに語る妹
み佛と母をよぶ日の重なりていと悲しくも年は暮れぬる
御經を念誦し居れば後の世に逢ましものとはかなき願ひ
うつら／＼逝く際までも調子づけ謠ひおはせし『熊野』は悲しも
黃八丈著ればなつかし亡き母のまはのきわのその面の見ゆ
いとしくも我が哀しまれ日のために雨つきず降る泣かまほしけれ

■新年吟　杉原田柿
移住十年にして四温のおらが春
賀狀投げて去にし脚夫の聲朗ら
賀詞交はす督府の式後御降れり
木遣唄に身輕き諸に出初めたり
繭玉や花ガスや湯屋の番木冴ゆ
片照りの雲に松納む夕となり

第三版

▲後場の商戰

十七日の三月限
寄付　十一圓四十四錢
止　十一圓四十四錢

賣買取組高　一月限　三百石

已に完了せるも中央特別選擧調査其常繁襍なる爲め三月末ならでは終了せざるに付國民會議の召集は早くとも……

本社電話番號
當分の間構內接續電話を廢し凡て局直通電話にて左の通り御呼出被下度候
編輯用　長三四五番　長二二一四番
營業用　長三二六番　六六〇番
發送用　二六一六番

新刊書御案內

書名	著者	定價
詩傳乃木大將	兒玉花外	八〇
朱欒集	晶子	一、〇〇
父の書簡（增訂新編）	薗川忠雄	一、〇〇
白隱禪師言行錄	高橋竹迷	一、〇〇
福澤諭吉	田中王堂	一、二〇
達磨	松本文三郎	一、二〇
獨逸皇帝大野心論	樋口麗陽	八五
金	飯田旗軒譯	一、七〇
悲しき思ひ出	岩下小葉	四〇
平和か鐵血か	七十名家論述	一、三〇
現代世界の變遷と將來の發展（揷六冊）	高島駒吉	七、五〇
修養一ケ年	岡田	五〇
家庭と學生	大町桂月	三五
眼と神經衰弱	前田珍男子	七〇
瓦斯發動機と瓦斯力發電所	永雄節郎	二、二〇
機織工學要覽	八田志津馬	一、三〇
貸倒豫防貸金回收の秘訣	花井業	九〇
改正戶籍法解說	粟山保吉	三、八〇
假名眞觀政要	民友社	一、〇〇
現今名家碁戰 卷の二		一、〇〇
新撰圍碁全集	鈴木爲次郎	一、〇〇
蘇峰文選	民友社	特二、五〇

大阪屋號書店　京城本町　電話二〇八六番　振替京城二五七三

疾病の撲滅！　貧乏の驅逐！　煩悶の解決　出來る　誰にも

哲理治療法通信教授

東京牛込區五軒町　帝國健全哲學館　振替東京一七一六番

辱皇后陛下各宮殿下御嘉納

理想の家庭

國民新聞社編　定價五十錢郵稅八錢本社負擔

内容一斑
▲理想的家庭　德富猪一郎氏▲教育　下田歌子女史▲結婚　鳩山春子女史▲育兒　瀨川昌耆博士▲衞生　吉岡彌生女史▲交際　山脇房子女史▲住宅　伊東忠太博士▲中流の納戶と裁縫部屋　羽仁もと子女史▲室內の裝飾　井上秀子女史▲庭園　長岡安平氏▲園藝　鈴木武太郎氏▲臺所　入澤博士夫人▲家庭料理　赤堀峯吉氏▲家庭經濟　嘉悅孝子女史▲衣服　堀越千代子女史▲洗濯　宮川壽美子女史▲下婢の使方　加藤博士夫人▲家庭の娛樂　巖谷小波氏

本社は現代斯道專門の諸先生が我國家庭の改良向上を圖らんが爲に住宅の建築構造より育兒、衞生、家事、經濟の事に至るまで、家庭に必要なる百般の事項を細大漏さず叮嚀親切に講述執筆せられたものであります。加之前記各題目の後には家庭便覽として家政上最も大切なる種々の心得を記載し、尚諸先生考案物の鮮明なる寫眞版を挿入してあります。主婦計りでなく家政研究中の女學生諸孃の是非共一冊を左右にせらるべき最新刊の良書でございます。

大取次所　京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部

大町桂月著　筆のしづく　天金金文字入美本　特價九十錢　送料八錢
本書收むる所流麗なる美文痛快なる論文痛切なる批評或は紀行隨筆等數百章皆錦心繡腸より發する處即ち先生の筆のしづく是文壇の花

大町桂月著　社會訓　天金金文字入美本　特價四十錢　送料四錢
本書は即ち先生が奇警なる炯眼能く社會の弊風を洞察し人情の弱點を看破し加ふるに筆鋒銳利才氣躍動す被する處文藝教育宗教道德風俗習慣社會一般に關し獨特の才筆を揮ひて興味津々

大町桂月著　古今史談　天金金文字入美本　特價四十錢　送料四錢
本書は古今英雄偉人の事蹟を捉へ來りて正面より或は側面より之を論じ之を評する見識卓絕才筆縱橫能く英士の面目を躍動せしむ殊に先生が心彫骨の文は的確なる史實と相俟つて趣味津々

發行所　東京日本橋通四丁目　振替東京四二七番　公文書院
賣捌所　京城本町　振替京城二五七三　大阪屋號

週刊　東京醫事新誌

新年號要目
▲動物に對する生體の習慣性（田代博士）▲廣大なる手術的新創面を掩ふに皮膚離片（林博士）▲腔の先天性輪狀狹窄症（佐藤勤也博士）▲所謂クローム親和細胞のヘンレー氏クローム反應に就て附同上細胞に於ける「アドレナリン」の新顯微化學的證明法（緒方博士同學士）▲常習性便秘の一新收斂劑「アルバルタン」に就て（佐伯博士）▲結核剖檢例（佐藤恒二博士）▲實地醫家に最も適切なる予の簡便血清診斷法（青木博士）▲腎臟炎の二例（三浦謹之助博士講）▲迴盲腸結核症に對し筋膜片結紮を用ひ腸管の不全曠置を行へる一例（伊藤準三博士講）▲耳內異物（久保博士講）▲先天性斜頸（仕田博士講）▲痔瘻の防止法（マンマリー）▲輸尿管結石の症候及び診斷（ニウマン）▲疾病に及ぼす精神の影響（佐藤恒丸博士）▲熱帶衞生問題と病理學研究の必要（堀內學士）▲杏林瑣談（竹中學士）▲新藥「パラチノイド」を以てせる貧血の療法（碧海漁人）▲會報▲齒科器械▲官報▲雜報▲抄錄
前金三月分一圓四十錢　一箇年分五圓二十錢　三箇月分以上前金割引　申込者には新年號進呈
東京芝區新堀河岸　東京醫事新誌局

名人　小野五平　師閱（將棋新報社編）
大橋伊藤宗家所藏の代々の御將棋所千派の奇局中より十餘本家名人珍局百番を精選解釋す
卷頭に難題　大矢數詰將棋の問題を掲ぐ
三版　將棋必勝法　詰將棋妙手選
和裝美本一冊　定價卅五錢　送料四錢（御送金郵券代用不苦候）
發兌　東京・大阪　出版局　大阪屋號（書店）　京城　電話二〇八六　振替京城二五七三

第三十七回帝國議會

貴族院（十七日）

貴族院は午前十時開會、議長は新たに勅任せられたる藤波言忠氏の席次を報告し直ちに日程に入り臨時軍事費豫算追加案審査期限を定むるの件、大正五年度歳入歳出總豫算追加案の審査期限を定むるの件、大正四年度歳入歳出總豫算追加案の審査期限を定むる件、大正四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案の審査期限を定むる件、豫算外國庫の負擔となるべき契約をなすを要する上に於て審査期限を定むるの件、大正五年度特別會計歳入歳出豫算追加案審査期限を定むるの件を一括して議題とし武富藏相登壇以上六案に對し衆議院に於けると同樣の説明をなして降壇するや

▽田健次郎男　登壇減債基金復活に關し大隈首相の意見を問はんとすとて昨年臨時議會に於ける該基金に對しては事情已むを得ざるものとして希望條件を附し可決したる所以を述べ政府に於て貴族院の院議を尊重するの誠意あらば英貨及び佛貨債券約七千萬圓の償還を計畫する前に於て減債基金の復舊を計るべき筈なり然るに前約を忘れたるが如く何等施設を見ざるは遺憾至極なり巷間傳ふる所の如く彼の瀆職事件が大浦氏一個の好意なりとて内閣全體の責任に非ずと言明したる如く減債基金の復舊も亦單に前若槻藏相一人の約束なりと爲し居るに非ざるか本員は斯る言説を信せざるも當局の誠意を疑はざるを得ずとて首相の答辯を求む

▽大隈首相　登壇政府は決して貴族院の希望を無視したるに非ず又前若槻藏相の言明は當時政府を代表したるものにして五年度豫算編成に際しても此の點には焦慮せり然れども如何せん時在外正貨の激增は戰時の影響に由る一時的の現象にして此の狀勢を以て直ちに復舊を計る事能はず故に在外正貨處分法として英貨及び佛貨の償還を計り可成正貨の善用を期せんとしつゝありと答へ次で

▽仲小路廉氏　登壇現在の内地經濟狀態に於て鐵道公債二千萬圓を募集すべからざるや否やと質したるに

▽武富藏相　は現狀に於ては不可能なりと信ず既に六千萬圓募集の計畫あり而して之れ以上短時日の間に更に二千萬圓の募集は容易なるや否や大に憂慮を要すと答ふ仲小路氏は更に鐵道敷設改良費海軍充實費の財源等に就き質問し藏相の答辯あり次で

▽目賀田男　登壇陸軍の兵器賣却代は憲法の解釋に依れば豫算に計上し議會の協贊を求むべきに政府は之れを特に作業會計に編入したるは如何なる理由なりやと質したるに

▽岡陸相　は一般會計法に依れば賣却後に於ける兵器の補充は議會の協贊を經ざるべからず從つて賣却後一時兵器の缺陷を生ずるを以て直ちに補充を得る特別會計取扱を爲せりと答へ正午休憩

休憩後午後一時半開會引きつゞき質問戰に入り

▽目賀田男　登壇陸軍當局の衆議院に於ける答辯を指摘し其の意思を確め更に軍器賣却のことたる原則として許すべきものなるや否や又たるものなるや否やを問ふ

▽岡陸相　は兵器に非ざるものは賣却すべき性質のものに非ざるも他國の切實なる希望に應じ融通したる迄なり又砲兵工廠は營利專門に設立したるものに非ざるは言ふ迄もなしと答ふ次で

▽水野錬太郎氏　は先づ大藏大臣に對し質問すべしとて登壇三千八百二十萬圓の外債償還借替を爲すに就ては減債基金法に對し相當の考慮を拂はざるべからず若し一般會計より二千萬圓を鐵道資金に貸し付くる餘裕あらば何故に租稅輕減の財源に供せざるや首相並に藏相は正貨の激增は一時的變態なりと言明さるゝも變態か常態かは何を以て標準とするや又陸相に對し陸海軍の兵器は憲法上軍の編成に屬すべきものと認めらるゝや否や果して大權に屬すべきものとせば賣却に關する方法は嚴正なる形式に依り議會に提出せざるべからずとたゝみかけて詰問す次で

▽武富藏相　登壇外債償却内債募集に關し政府は何等拘束さるゝところなし要は今日の貿易狀況が一時的か永久的かは俄に推斷し得ざるを以て先づ正貨の激增を善用して此の計畫を樹てたり而して外債内債其の何れにも輕重なきも最も利率多く且つ償還期限短かき佛貨公債を償還するを急務と信じたりと答へたるに水野氏は然らば佛貨以外の公債は之を償還したる後にあらざれば償還せざるやと質す藏相は償還未濟の間と雖も他の公債を償還することあるべきを信ずと答へ、次で水野氏は兵器賣却の手續並に會計編入法につき陸相と質問應答を交し

▽高木兼寬男　登壇、壯丁體格の衰退に關し問はんとしたるに議長より日程に何等關係なければ後日に讓らるべしと注意され、高木男は之に服し降壇

▽岡部長職子　は日程の各案は特に審査期限を定めず調査終了次第決定すべしとの動議を出し贊成者多數にて之に決し次で政府提出衆議院送付左記日程の第一讀會を開き、各所管大臣の説明ありて何れも委員附託に決し午後二時四十五分散會せり（東京特電）

●大正三年臨時事件の經費支辨に關する法律案
●朝鮮森林特別會計法廢止法律案
●假出獄法中改正法律案
●鐵道敷設法中改正法律案
●朝鮮事業公債法中改正法律案

○日支滿蒙兩銀行案

創業費要求追加豫算

今期議會へ提出するに決せる日支、滿蒙兩銀行設立案は多少の修正を加へたるも、資本金は日支銀行二千萬圓、滿蒙銀行は一千萬圓となしたるが政府は兩銀行の創業費を今期議會に追加豫算として要求する筈の由なるが該創業費は兩銀行を通じて約二十萬圓なりと云ふ（東京特電）

○熊希齡歸京す

馮總統より屢々電報されたる熊希齡は十六日午後二時歸京せり近く何等かの職を授けらるべし（北京特電）

○練習艦隊動靜

練習艦隊磐手、吾妻十七日午前青島より旅順に入港す中村都督は十八日官邸に松村司令官以下の歡迎會を開き十八、九兩日候補生一同上陸戰跡見學をなし二十日出港大連に入港し三日間碇泊見學の上二十四日解纜仁川に向ふべしと（大連特電）

○石本代議士

石本代議士十七日夜大連出發朝鮮經由東上すと（大連特電）

○青木中將通過

青木中將十七日午前六時大阪驛を通過し下關へ向ふ途中小倉に立寄り長崎に行き上海に著し當分同地に滯在すべしと（大阪特電）

雜報

◎朝鮮の教育と教員の心得（四）

内務部長官　宇佐美勝夫氏談

▲訓育に力を注げ　第三項は訓育上の注意にして教育に於ては訓育に力を用ゐて德性の涵養に努むべく特に國民的性格の養成を期すべきことを注意されたるものなり。教育は人を養成するものなれば訓育に力を用ふべきは當然のことゝす。而して我が帝國の教育に於て期する所は忠良の國民を育成するにあるが故に教師は常に國民的性格の養成を眼目とせざるべからず。特に朝鮮人は古來歷史を別にし又風俗習慣を異にし加ふるに併合後日尙ほ淺きを以て、其の教育に就きては特に此の點に留意し、以て國民的性格の養成に努むべきは論を俟たざるところなり。

▲日常道德の闡明　訓育に於ては内鮮人何れの生徒たるとを問はず、教授の際にも、實習の際にも、其の他機會ある毎に、常に日常道德の闡明に勉め、訓誨を怠らず其の實踐を奬勵すべきなり。生徒に勸奬すべき德目中特に注意すべきものは小學校規則第九條、普通學校規則第七條等に示されたる所に徵して明かにして本項は是等を要約せるものとすされば教師は常に是等の德性の涵養より進みて國民的性格完成の域に入らしめ、以て能く國民たるの本分を完うすべき人物を教養せんことを期すべきなり。又人の世に處するや其の位置の高下に拘はらず、又其の業務の如何を問はず、各其の本務を完うせんには、確乎たる信念を有し事に臨んで敬虔の情あるを要す。此の信念ありて始めて業に服して熱誠事を執りて異熱なるを得べし。

▲建國の理想高遠　若し夫れ人として此の信念と敬虔の情とを缺かんか義務を譏し、責任を重んずるの心自ら減退し、或は輕佻に走り或は浮薄に流れ、甚だしきは人世を蜜燈過眼視するの弊に陷り、凡百の功一として擧らざるべし。抑も我が建國の理想は皇宗の聖勅に明かなるが如く、高遠にして雄大なり。苟も帝國の臣民たるものは何人と雖も之を自覺し、忠孝の本義に據りて各其の本分を守り以て我が建國の理想の實現に貢獻するの覺悟あるを要す此の覺悟は即ち我が國民の信念の根柢を爲すべきなり。此の大精神に依れる信念と敬虔の情とに富める人にして始めて身を立て家を治め進みては國家有用の材となり、國運の發展に貢獻するを得べし、こゝ教育の任に當るものは訓育上深く此點に注意せんことを要す而して第四項と第五項とは教授の方法に關する注意にして諸多の教授方法中特に留意すべき點を示されたるものなり。

▲各級科目の統一　第四項に於ては生徒の學ぶ所を確實にし應用自在ならしめんが爲、特に教授をして統一あらしめ、生徒をして反復錬磨の効を積ましむべきことを注意せられたるなり。今日實際の教授を見るに往々にして各教科目教授の目的を明にせざるものあり各教科目の系統秩序の確然たらざるものあり、又各教科目の連絡統一を缺き甚だしきは相互扞格矛盾するが如きものも無きにあらず。諸教科目は各其の目的を有すと雖も、彼此調和統一せられ、渾然一團として作用するに於て始めて教授の効果を顯著ならしめ得るものとす、現在の實狀は此の點に於て頗る遺憾とすべきもの勘からざるを認む。一例を擧げんか習字科につきては文字の間架結構筆意筆勢等に注意し大に文字の書方に注意するが如しと雖も、作文科に於ては其の文字の書方に無頓著なるを看過するが如きことあるは即ち是れなり。此の如くにして何んぞ能く教授の効果を完うするを得んや。

◎釋王寺の養鱒

咸鏡南道安邊郡釋王寺にては昨年十二月九日米國サクラメントより鱒の原種一萬餘を取寄せ直ちに試養に著手せるが目下既に孵化したるもの二三十尾に達し成績稍々良好なりと然れども右一萬個中約三分の一は孵化の見込みなく試養の鱒は全部之を放養し今年秋季の成績如何に依りては更に大々的養殖の豫定なりと

●銀行券發行高　一月七日より十三日に至る一週間の銀行券發行平均高は三千百六十一萬二千百六圓にして内正貨準備發行平均高一千百十八萬五千三百二十六圓保證準備發行平均高二千四十二萬六千七百八十圓なり

◉大阪より

▲露貨稅率と輸出額　極東露領に於ける從來の無稅品中今回課稅せられたることは既報の如くなるが其筋の受けたる詳細なる報告によれば課稅品目並に稅率は左の如くにして尙大正三年度の輸出額を示せば左の如し

品目	稅率	輸出額
オート	○、留三	一一、三一九
穀米	○、六六	八四三、一九六
玩器	○、三三	一二二、二五五
其他	○、三三	二〇三、八一八
醫藥染料	○、四四	三、五七五
蜜柑	一、〇〇	三八一、〇八一
林檎	一、三〇	五三三、三四七
其他	一留乃至三留六六哥	二〇四、三六三
椎茸	○、九三三分の一	一三、一一五
磚茶	四、七五	一一、一七六
食鹽	○、一六二分一	二六四四、七三三
機械調帶	○、三三	八三三
木製品	一留二六哥半乃至一五一九留八五哥	二七、三三七
植物固形分	一六半哥乃至一留六五哥	七、九七七
石炭	○、○二	四二九、七〇〇
コークス	○、○三	一、四二九
硫黃	○、○三	一九、九九三
アンチモニー	○、三三乃至○、四九二分一	一三三六、一二〇
洗鑵曹達	○、九九、八二五	一九、九九二
ヨードカリ	二、三〇〇	二九、〇〇九
大甘油	三、一〇	一八、四三六
銅（塊及錠）	五、五〇	二、七五〇、八六九
銅及黃銅（錠）（管）	六、六〇乃至七、八一	三、三〇七
花莚	九、九〇	三〇、四五八

▲洋紙値上協議　活躍せる洋紙界は昂騰せる價格を引止むべき策なし日に月に高値を呼び協議する毎に價格の引上を見居たるが十五日又復之が協議をなして値上を見るに至るべしと

▲肥料界の大勢　既往に溯りて其趨勢を觀察する時は本邦の肥料界も隔世の觀あり明治三十六年に於ける販賣肥料内地產額は千七百萬圓なりしに四十三年には三千萬圓に上り大正三年には五千六百萬圓に達し過去十二年間に於ける其增加は約四千萬圓の多きを見三倍以上の增進を示せり而して外國肥料は十七八年頃油粕類及び魚肥類を輸入するに止まり其價格數十萬圓に上らざりしも累年益々多きを加へ價額漸次增大し三十六年には一千四百萬圓四十二年には三千六百萬圓大正三年には六千三百萬圓に達し過去十二年間に增加したる額五千萬圓にして約四倍の激增を見たり之を要するに本邦需要の販賣肥料は內地生產額五千六百萬圓及び海外肥料輸入約六千三百萬圓の內過燐酸石灰其他調合肥料の原料として使用せらるべき六千八百萬圓を除きたる四千四百萬圓を合計して約一億圓に達する狀勢に在りと（大阪支局）

◉英獨對峙と日本の立場

民族の生存競爭に於て日本帝國の將來を憂ふ——小松翰長談

餘り戰爭が長延く爲めに戰爭に對する世人の注意が薄らいで來たが然し

▲世人が之を顧慮　すると否とに拘はらず現に角世界の大戰は依然として現存するのみでなく徒々其慘禍の及ぶ處は計り知るべからざるものがあらうとして居る若し何等かの突發事件が起らない限りは今後一年や半年では終熄しようとも思へない其れは昔の戰爭とは趣を異にし今日の戰爭は人力に依頼するよりは寧ろ武器に靠ると云ふのが主なる相違點で古人の爭は比較的決勝迅速であつたが機械の力を相克する事は仲々容易に片が付かない尙然に注意すべき事は兵數の問題であつて兵數が少ければ少い程戰爭の勝敗も極めて早く定まるものであるが兵數多ければ割合に時間がかゝると云ふ事も見易い道理である其れは一局部の勝負が小數の兵力で爭ふ時には

▲一局部の勝負で　忽ち事決するのだが多數の兵力を用ふる時には一部の勝敗は全局に顯著なる影響を起さないものである許りでなく例へば東部に於ける敗戰は西部に於ける勝戰で補ふが如く單に小爭を重ぬるのみで全局の勝敗を決する事稀なるが故である故に古來の大戰と稱せられた奈翁一世の戰役の如きは參戰者の兵數は百萬に足らなかつた爲めに奈翁が僅に三十萬の精銳を率ゐて歐洲を蹂躙する事が出來たが今日では敵味方の總數一千萬内外の大兵が戰線に相對峙して日進精銳の武器を擁して

▲互に秘術を盡す　と云ふものだから敵側から云つても今日に於て巴里を蹂躙するとかペトログラードに突進するとか云ふ事は思ひも寄らぬ事である況んや長驅聖軍倫敦を襲ふが如きは到底不可能で之と同時に聯合軍側から云つても既に白耳義の恢復もできず塞維亞は敵手に委すると云ふ今日に於て伯林を進擊するが如きは企て及ぶ處でない事は明瞭である果して然りとすれば和撲で云へば梅ケ谷と西の海が四ツに組んで互に相守るが如きもので何時迄たつても勝負は見えない樣に歐洲戰爭も結局は對峙持久の狀態で數年を經過し遂には取疲れて水を入れ結局は引分と云ふ事になりはしないか是れ甚だ

▲世人の憂ふる處　であらうと思はれるが是れ今日の時勢の然らしむる處で斯の如き大戰が突差の間に終熄を告げる事と思ふのは思ふ方が誤りである先づ長期の理には何等かの機會で初あるものは終を告げられねばならぬが假令や吾々の希望するが如くに敵國を屈伏する事が出來たとしてもゼルマン族は絶滅しない事を記憶しなければならないされば彼等も敗北したとするも其捲土重來の勢の恐るべきものがある事を豫め覺悟しなければならぬ又而して茲に憂世の士が

▲細心熟慮を要す　るものは將來に於ける人種的生存競爭の一事であるそは此戰爭の始に於てはスラブ族とゼルマン族との對抗が原因と認められておつたが今日の形勢より察すればゞ寧ろゼルマン族とアングロサクソン族との死活問題となりはしないか其時に當り日本帝國は如何なる立場にあるべきか我輩も之に對しては多少の意見を有してゐるが之を他日に讓るとして大に世の反省を請はんと欲する

◉歐亞連貫列車 …べしと同會社の歐亞連貫列車… し郵船は二を投じ九州戸畑附近に一大製錬所設立の計畫をなし工場敷地選定中なり… は海陸連絡上至大の便宜の保たるべきを確認し時たるを以て同地一帶… 著手せしは近時久原鑛業會社の發展に… に渡邊組三千四百斤價格二千七百六十圓山崎組四千七百七十五斤價格三千八百四十一圓にして合計八千百五十七

各國時計　自轉車　蓄音器

直輸入　卸商　京城黃金町二丁目（電話一〇一五番）　喜多金光堂　振替口座七八二番

優等清酒

福岡縣三井郡山川村　釀造元　富安本店

京城永樂町二丁目　發賣元　富安京城支店　電話一〇三九番　振替口座四三三九番

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

京城　朝鮮銀行

振替貯金口座　京城三三三番

電話（國）三三一、（國）三三二、六一、一二、一一〇六、一二六〇、一二六一、一一六三

支店出張所　東京、大阪、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、長春

右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

■開通御披露　電話五四二一番

印章版木ゴム印並ニ菓子型彫刻、堂　京城本町一丁目五三　守山安次郎

製造元とのやくそくで　砂糖、麥粉、寅、金巾、燐寸、石油、洋蠟、鍋釜、紙、乾物、罐詰、ビール、サイダー、葡萄酒、清酒、醬油、染粉、足袋、其他日鮮人向雜貨食料品

割の安い品そろいの　大おろし店

仁川本町　河野本店　電話二八一番　振替京城一二二番

銚子港　田中玄蕃釀造　ヒゲタ醬油

代理店　京城明治町一丁目　櫻正宗發賣元　山邑京城支店　電話八四九番　振替貯金京城七五番

內科　小兒科　入院隨意　京城日出小學校前　多々見醫院　院主　醫學得業士　多々見五郎　電話九四〇番

東京大相撲

（十七日午後東京支局特電）

▲四日目の勝負

朝日山 四國洋　千葉嶽 常の花
駒泉 男島　玉の川 緋縅
明石 逆鉾　紅葉川 宮城山
源氏山 玉椿　櫻川 分 大の川
紫雲龍 十州山　八甲山 四海波
近江富士 眞砂石
稲の穂 宇都の宮
兩國 浦の濱
金の花 小常陸
大蛇潟 預 對馬洋
大錦 黒瀬川
栃木山 鳳

▲中入後

稲葉嶽 藤の川　玉の川 朝緑
鳴門洋 柏戸　寒玉子 預 岩木山
九州山 鶴渡
石山 釋迦ヶ嶽
千年川 預 綾川
西の海 大鳴門

▲男島●緋縅●は左四つに組むや男一寸下手投を打ち緋の腰の浮くところを吊り氣味に寄り倒して勝▲明石●逆鉾●は左差し一氣に寄つて明の勝は呆氣なし▲紅葉川●宮城山●は紅葉立ち上りさま突いて／＼突き捲り遂に突き出しての勝は元氣なし▲玉椿●源氏山●は源氏立ち上るや張手を用ゐて突き進むを玉巧みに殘しつゝ下を潜つて源氏の左足を渡し込みに行きしが源氏飽迄突張ると見せ叩き込みて勝▲櫻川●大野川●は左四つにたゝみあひたるが勝負附かず水入り後前同樣にて引分

▲稲の穂に宇都の宮

は宇都烈しく突き放したるも稲巧みに捌いて受け流しつゝ渡り合ふ內宇都大きく叩き込むを稲殘すと共に飛び込みさま抜き上げて持ち出しての勝は見物なりし▲眞砂石●近江富士●は眞砂の突き出すを近江引き掛けつゝ廻はり込み眞砂立ち上らんとするを近江透かさずトンと突き倒しての勝は拔目なき取口▲八甲山●四海波●は右四つに渡り四海の寄る鼻を上手捻りにて四海脆くもペッタリ膝を突く▲十州山●紫雲龍●は立ち上りさま突き合ひ十州諸差しに行くを紫雲突き拔き右を當てゝ押し倒す

▲浦の濱に兩國

は當日の好取組にて兩力士土俵に現はるゝや滿場喝采湧くが如く暫しは鳴りも止まざりし態にて漸く仕切つて立ち上るや兩國の差手を引き掛けて例の小手投を打ちしが浦危く殘して左を差すや兩同じく左を差し右上手を引くなり強引に吊り進み浦が土俵際に吊り返へさんとするを外掛に掛けて兩の勝は大喝采▲金の花●小常陸●は金機先を制して鋭く突つ掛け小常の逡巡ぐを透かさず左を差して一氣に寄らんとしたるが小常殘して同じく左を差せば金上手を取つて再び猛然寄り立つるを小常土俵際に下手投を見せて廻り込む際踏み切りしため金の勝となる

▲大蛇潟に對馬洋

好取組なり大蛇左を差さんとするを對馬嫌つて右四つに左り左手に褌を曳けば大蛇その手を捲いて差手を引かんとしたるが對馬引かせずして右上手を引かんとしたれど大蛇も引かせず「ヂリ／＼」押合ふ內大蛇遂に差手に褌を曳き呼吸を圖つて強引の小手投を打ちたるが對馬危く殘して體を突きつけしため同體に落ち軍配は對馬に揚がりしも西溜より同體なりと物言ひつきにて土俵預かり▲黒瀬川●大錦●は初顔合の好取組喝采裡に立上るや左四つに左り互ひに差手に褌を引いて一息の後黒瀬寄ると見せて肩透かしを引かんと腰の伸びる處を錦得たりと附け入り喰ひ下り猛然に寄進み遂に寄り切つての勝は大相撲

□殊勳三力士　九州山は入幕以來の初顔合せに横綱鳳を喰ひて勇名を馳せ岩木山又關脇玉手山を屠つて東軍の氣勢を揚ぐ、何れも東軍の殊勳者に數ふべきもの、西方にては大鳴門初日に堂々の戰を以て鐵將綾川の首を揚げて西軍のために氣を吐く西軍唯一の殊勳者たり

九州山　岩木山　大鳴門

▲鳳に栃木山

は鳳前場所大失敗したればその復讐戰ともいふべき大相撲なり双方念入に仕切立ち上るや左四つと見る間に栃木猛然寄り進めば鳳寄りながら右手に栃木の左手を捲いて例の小手投を振らんと腰の伸びるを栃木透かさず見れかゝつて眞向に寄り切り美事に栃木の勝は喝采湧くが如し

中入後

稲葉嶽●に藤の川●は左四つ藤の寄るを稲打ちやりしに同體なりとの物言ひつきしが土俵預りにて稲の勝▲玉の川●に朝緑●は玉飛び込んで右を差して寄れば朝其の手を捲いて小手投を打ちしが利かず寄り倒して玉の勝▲柏戸●に鳴門洋●は柏突張るを鳴門殘して土俵を廻り込み右を差して掬ひ投げを打ち殘るを透かさず寄切つて鳴門の勝▲寒玉子●に岩木山●は烈しく突合ひ岩木引手を用ゐて突進するを寒玉割込んで反對に突き進む際岩木叩きて寒玉バッタリ前に落ちしが岩木叩く際指の敵の髪の毛に觸りしため物言ひつき結局預かりとなる▲鶴渡●に九州山●は右四つ九寄進み鶴が苦し紛れに掬ひ投を打たんとするを突き放して九の勝は強し

▲石山に釋迦ヶ嶽

は石突張つて右を當つるや懸命に押進めば釋迦浮足立つて押されながら左手に石の首を巻き捻らんとしたるも石殘して釋迦が土俵を廻つて逃げんとするを透かさず突き放して石の勝は面白き相撲なりき

▲千年川に綾川

は千年の出鼻を綾飛び下つて一押に押さんとしたるが千年堪へんとて得意の巻落しに行くを綾突つけて殆んど同體に落ち軍扇は綾に揚がりしも物言ひつき預かりとなり綾は丸星千年は半星と決す

▲大鳴門に西の海

は西の出鼻を鳴門その左手を引掛けて廻り込み進二無二突張るを西土俵際に堪へて押返し左四つとなるや鳴門外掛けに捻れ込まんとするを西土俵際に僅かに殘し反對に寄進み屏風倒しに寄倒す際鳴門打遣りを見せ軍扇は西に揚がりしに同體なりとの物言ひつきしが結局土俵預りにて西の勝となり打出したり

▲五日目の取組

緋縅（近江富士）　朝緑（源氏山）
稲葉嶽（柏戸）　紅葉川（高千穂）
逆鉾（鳴門洋）　紫雲龍（岩木山）
眞砂石（稲の穂）　寒玉子（千年川）
小常陸（九州山）　釋迦嶽
玉椿（浦の濱）　大蛇潟
綾川（西の海）　兩國
鶴渡（石山）　鳳

▲中入後

宮城山（大野川）　宇都宮（四海波）
櫻川（八甲山）　黒瀬川（金の花）
栃木山（對馬洋）　大錦
玉手山（十州山）　大鳴門

●香港全市爆破計畫

獨探に教唆されし苦力の陰謀

新嘉坡來の南洋郵船會社ボルネオ丸船長河合彥三郎氏の談に曰く過般香港に於て行はれたる獨探に教唆されたる苦力の陰謀は頗る大袈裟なりしものにて香港市街の一共同便所の敷石の下より數丁に亙りて

▼一大洞道を掘鑿　し同市の大官衙及び附近の市街を一導火線に點火すると共に一大音響と共に香港全市を爆發せしむべく計畫を進めつゝありたるものにてその目的地に近づくと共に其坑道は漸次大を加へつゝありたるに見てその計畫の如何に大袈裟なりしかを想像するに足るべく人の知れる如く香港に於る市街は總て石又はコンクリートにて地中深く固められ居れるに此大規模の作業は

▼數箇月の苦心を　想像するに足るべく今一箇月間發覺の遲るるに於ては幾多大建築の破壞崩倒を共に少からざる人命を奪ふに至りしなるべく聞く者孰れも戰慄せざるものなし面して彼等が戒嚴令施行地として多數の軍隊警官の飛耳張目して日夜巡邏する間に於て如何なる方法を以て大石を地中より搬出して他に遺棄したるかは一の奇蹟と云ふの外なく其の大膽にして用意周到なりしことを想像するに足るべし發覺の端緒は其共同便所より夜中支那人の出入頻繁なるは不思議と一巡警が其の敷石を跳ね

▼此大秘密を發見　したるにて此の椿事以來支那人苦力の親分には巡警同樣の權限を與へて日夜其部下の點呼を嚴重に行ひつゝありと尚同船長の談によれば瓜哇各港には數隻の獨逸汽船抑留され居れるが彼等は實際動かし得べき筈のものならざるに關せず和蘭國旗を掲揚して內々航海しつゝありとのことなり（門司特電）

●山寨に籠つて敢て動かず

南支風雲と白狼

河南の白狼匪首魁白狼は一時死せりと傳へられたるも實は存命中にて目下河南省舞陽縣の山寨に立籠り幾多の美姬を擁し悠々閑日月を送り居る由、南支一帶風雲益々急を告ぐる今日彼にして起ち往年官軍の精銳八萬に一泡吹かしたる態度に出でなば北京政府の震駭一入なるべきに彼南支の風雲を餘所に見つゝ太平の夢に耽り居るは何故ぞと云ふに是は彼れ白狼が河南巡按使のため三年間纂擧を企てざる事との條件の下に四十萬兩にて買收せられたるが爲にて彼はその金にて安樂なる生活をなしつゝあれば自然意氣も銷沈し亦當年の野心を行せざるものとも察せらるゝが彼の部下にて四天王の一人といはるゝ王世懸の如きも雲南の獨立、南支一帶の形勢宜ならざるを見て此際飛躍すべく頻りに白狼を動かすに努めつゝありと云へば或は再び彼の蹶起を見んも知るべからず隨つて買收の爲に軟化せし彼の態度も革命軍の進展如何と共に注意を要すべしと云へり

●千壽丸も亦擊沈されしか

潜水艇に無線電信にて兵庫縣薩摩汽船會社所有汽船千壽丸（七千噸）は去十一月十五日阿弗利加北部地中海ホランド港をポートサイドに向け出帆せしが以來今以て行衛不明にして會社より英佛伊等の官憲及び關係者に對し電報を發し居れるが何等消息なし同船も終に敵潜行艇のため無警告にて擊沈せられたるものと想像する外なく同社重役安藤新太郎氏は憂に上京外務海軍遞信各省と共に搜索方につき打合せ中なるが同船乘組員は船長平井正吉一等運轉手池田清次郎機關長江崎八百藏氏外邦人二十四名支那人二十一名米人一名計四十八名也と（神戸特電）

□懸賞豫想取組

九州山に浦の濱　宇都宮に黒瀬川

別項東京特電の如く東京大相撲の五日目は非常に好取組が多いが就中本紙の勝負豫想懸賞中の二組がある九州山は大錦に似て堅實な相撲振を以て前場所破格の昇進をした新進力士で前頭五枚目、浦濱は前場所の不成績で關脇より二枚目に落ちたとは言へ今年の元氣は素晴しいもの、面白からう、宇都宮に黒瀬川は今場所こそその地位に八九枚の差こそあれ倶に同型の好力士潑剌たる爭ひを見せるだらう

日向

●警官痛手に屈せず強盜と挌鬪捕縛す

全羅南道康津郡管內兵營駐在所江淵巡査は審臟來各地に出沒して數箇所を荒したる三人組の強盜を逮捕せんと苦心搜索中件の強盜は早くも風を喰つて郡外に逃走せる旨を聞込み三日未明より之を追跡し二日に至り元昌平郡と玉果郡との境に於て首尾好く右三名に追付きたるより同巡査は直に飛掛つて繩を打んとせしに強盜は夫と知つて逃出しもせず抑つて手向ひ來り極めて頑強なる抵抗を爲したるも勇敢なる江淵巡査は些も怯まず三人を相手に組打を始めたるより此奴手強しと見て取つたる曲者は隱し持つたる兇器を閃かし斬つて掛り同巡査は右手指及び手首に負傷したるが逃がしては一大事と思ふものから益々勇を皷し畢生の力を揮つて格鬪を續け終に內二名に繩を掛けたるに他の一名は斯くと見るや逸早く逃走姿を晦ましたり依つて同巡査は止むなく右二名を護送して歸署し直に手當を受けたり

●花嫁大聲を發して泣く

雲南の奇風俗

蔡鍔は再造神州の大旆を押立てゝ獨立を宣言してから大騷ぎをやつて居る雲南には極めて奇な結婚の習慣がある、先づ彼の地方で婚姻の話が出ると、見合とか何とか七面倒なものはなくて

■親と親とが　委細を取り極め雙方より嫁の方へ使者に結婚の費用を持たして寄進す、此の費用といふのは大抵一二萬兩の處で、嫁の方は之れで一切の嫁入の衣類調度を調するのであるが、譬へ勿れ此の支度に凡て二個年の長年月を要するそれは此の地方の風習として一度嫁入してからは十二三箇年は一切

■衣類を造らず　總て其節に用意して行く事になつてゐるからで斯くて準備が整へば、婿の方から迎へに來るが、それには大官の內では兵卒從者、軍馬を從へ堂々として練り込んで來る、茲に於て始めて婿と近親は會合して宴會を開き、それから嫁の先祖代々の墓參りをして初めて嫁の家で結婚式を擧げる、其式といふのが全く

■お祭り騷ぎ　で先づ諸方から贈られた爆竹を打ち揚げる其の音の大なる程名譽であり又自慢である

讀者文藝募集

▲短歌　題『雪路』　五首
▲俳句　題『椿』　五句
▲情歌　題『紅梅』　五句
▲川柳　題『頭巾』　五句
▲物は付　題『冷かな』　二句
右募集す來十九日締切

式が初まれば強い酒と支那料理の御馳走がある、此處に日本と異なるはその席上には終ひまで當の嫁さんは勿論一人の女も出て來ない事で、客への給仕は十二三歲の美少年が盛裝してやる、軈て頃ほひになると

■婿君が寳玉　の附いた冠を冠つて正服を著し緋緞子を兩肩より兩腋へ飾つて從者を連れ、來客に目禮する此の婿君は大抵まだ、十七八歲の少年が多い、此の地方は一般に女より男が年下と定まつて居る、式が終ればその後は飲めや歌への大騷ぎをする、斯うして數日を經て愈々婿君は嫁とともに我が領地に向け出發するのであるがその時

■新郎新婦は　一つの輿に同乘して從者に擔かせて行く、さて其の別れの際が一騷ぎで。新婦は盛裝も關はずに懸命に泣き立てる、そしてその場に在る物を手當り次第にしがみ付き自分の家を離れまいとあせる、他の者は又それを大騷ぎをして輿に乘せる

■新婦は一層　泣く、その聲の大きければ大きい程婿も喜ぶし本人の嫁御寮も名譽とするそうだが、ハテ又面白い奇習ぢやないか

●工學士娼妓と情死す

大阪市電技手工學士增田勇之助（三〇）は難波新地娼妓かずへを十七日道後溫泉にて殺し自分も後方の山にて縊死せりとの報あり（大阪特電）

●磯部少佐從軍

磯部海軍少佐留守宅へ大尉として佛國飛行隊從軍の報著せり（大阪特電）

◉取消　大正五年一月十一日發行實話新聞夕刊「相客の物を盜む」と題して御掲載相成候記事は事實無根に付全文御取消相成度此段申込候也　大正五年一月十七日

▲本日の現物界

…に今回愈々運賃…結果先づ此引上げを見たる次第なれ…船の現在運賃より尙幾分低位なりと…定したり右の引上は往航のみにして本月末橫濱出帆の德山丸より實行す

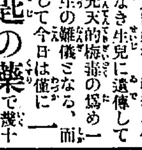
鑛業

…久原鑛業會社にては千萬圓の巨資…リートなる岩石層なるに加へ其地先に於て最近若松築港會社に於て十一萬坪餘の埋立計畫あり是が完成の上…所は主として戸畑鑄物會社鮎川專務の手にて進捗中なるが愈々千萬圓を投じて大分縣佐賀關に精鍊所を起工…月上旬より十二月まで咸鏡北道慶興郡西水羅津附近沿海に於て潜水器を使用して捕獲したる海鼠を聞く

慘酷なる結婚

花嫁犧牲となる

一度梅毒に罹つた青年は、根治し置かざれば、結婚後直に花嫁に傳染し、梅毒菌は新しき肉體を好むが故に、一西の黴蟲も忽ち幾千萬に繁殖し、無垢なり處女の肉は、慘酷にも黴菌の巢窟となる、又既婚者も梅毒を侮り油斷すると、罪なき生兒に遺傳して先天的梅毒の爲め一生の難儀となる、而して今日は僅に一匙の藥で幾十人の命が奪はれる程進歩せし我製藥界に於ては、手術を要する注射藥の外に、自宅で簡單、經濟秘密に、初期二期三期梅毒の治療を、最新の學理と幾多の實驗に由り、安全に遂げ得らるゝ專門內服劑現れたり、効力完全確實なり、詳細はハガキで東京市本所向島小梅町東京藥化學研究所へ照會せば一般患者必讀の圖入說明書を無代にて寄送さる。



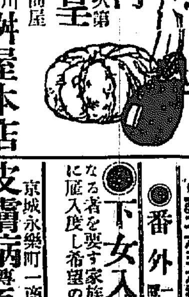
▲中風病▼

私家祖父及父は中風にて歿し現に實母は二十年の久しき同病にて困難せる結果不圖良藥を得て其効果を見つゝある喜びの餘り汎く世の同病者に告知せんとす郵券武錢封入申込あれば詳報すると共に一千人を限り朝名士題字の家庭療養書を進呈す
兵庫縣明石鍛冶屋町　加古忠兵衞

種苗案內

無代進呈

ハガキ御報次第
內外各國農產種苗問屋
東京瀧野川　振東京八六六〇　桝屋本店

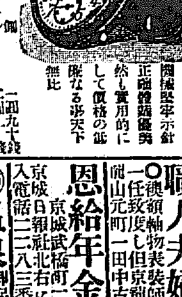


滿蒙處分論

露國クロパトキン將軍原著　日本大非色品譯　定價金一圓　郵稅本社負擔
京城日報代理部　振替貯金京城三〇〇

◉新荷著アンクル式片側懐中時計

開側堅牢示針正確體裁優美頗る實用的にして價格の低廉なる比類無比



形	品名	價格
十九形	鍍 ニッケル側	一圓九十七錢
十八形	同 ニッケル側	二圓九十七錢
十三形	同（機械表示）	二圓九十七錢
十九形	同（兩蓋）	三圓九十錢
十七形	同	三圓五十錢
十八形	銀	十六圓
十九形	金鍍金彫刻兩蓋	四圓二十錢
十六形	ニッケル腕時計	九圓
十二形	同	十一圓
十二形	同 ラヂユーム付	十一圓
十一形	銀	五圓二十錢
十九形	銀 鎖付	二十八圓
十八形	金メッキ（十年保險）	十二圓
十八形	同	二十一圓
十二形	同	十五圓
十六形	銀	百五十五圓
十九形	十八金	百圓
十九形	同	之を有し代金引換

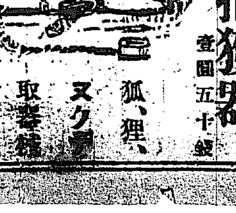
右は今回新著の商品にて本商會獨り店に無き所のもの伏して冀はくば急速御注文を仰ぐ地方遠隔の御方に對しては小包郵便にて御送附申上候
時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒、各國貨直輸入商
本店　京城本町二丁目電話九七二番　イングレッシー商會

●人事吉凶並に家相鑑定所

右都合に依り總監部通り大和倶樂部前に移轉仕候間舊に倍し御來館あらんことを祈る
大和町　倶樂部前　易學士　桐原象考

獸類捕獲器

米國ビクトル會社製　壹個　壹圓五十錢
狐、狸、ヌクテ　取寄次第
仁川濱町　京日仁川代理部



京日案內

◉普通　一回前金三十錢（一行）…

◉ボチヨボ入用　十三四歲の御なる少女を庇ひたし望みの方は本紙にて申込あれ　○仁川敷島　第二…　288

◉タイプライター賃貸（保險附）修繕　京城南大門通三　ツヅキ自轉車商會　電話二三一〇番　240

◉新調二號金庫賣拂　今般新調せし御希望者御來談乞ふ　京城若草町一〇六番　今井出　245

◉有給外交員數名採用す　希望者は履歷書携帶本人來談あれ　京城花園町一二三　▲帝國圖書普及會支部　266

◉古本買入誠實　御報參上　京城本町一丁目（明治町角）　電話二六三六番へ　野村書店　252

◉番外　一回前金六十錢…

◉下女入用　年齡二十五歲位身元確實なる者を要す家族少數にて見習同樣に雇入度し希望の者は至急申込あれ　姓名在社　258

皮膚病花柳病　專門　須古醫院　京城永樂町一商品陳列館坂の上　電話二二〇番　243

◉恩給　年金退隱料扶助料長期當分法定利子以內にて立替地方者便法有　京城永樂町一丁目四四商品陳列館前　江州屋本店　219

職人夫婦者入用　○裝飾者○一任致し但京龍に保證人有者　龍山元町一田中古物店　電話四一六番　220

恩給年金類立替　京城武橋町二十三番地　京城日報社北右に入　電話二二八三番　國江商會　225

◉溫泉　御保養方御入湯に是非一度御出下さい諸病にきく手輕な料理極勉強致します　漢江通練兵場前（電話三二二番）●龍山溫泉　228

●ほねつぎ　うちみ　くじき等　一切の治療御依賴に應ず　明治町　柔術道場　241

◉婦女家庭內職　輸出品編物です希望者へは材料無料貸與す初心者にても相當の收入あり　堅志洞九八電九四五　▲編物傳習所　254

開業資及金貸　秘密臨時返金の誠意有方に對しては特に低利御相談に應ず　京城永樂町一丁目商品陳列館前横入　秦貸店　250

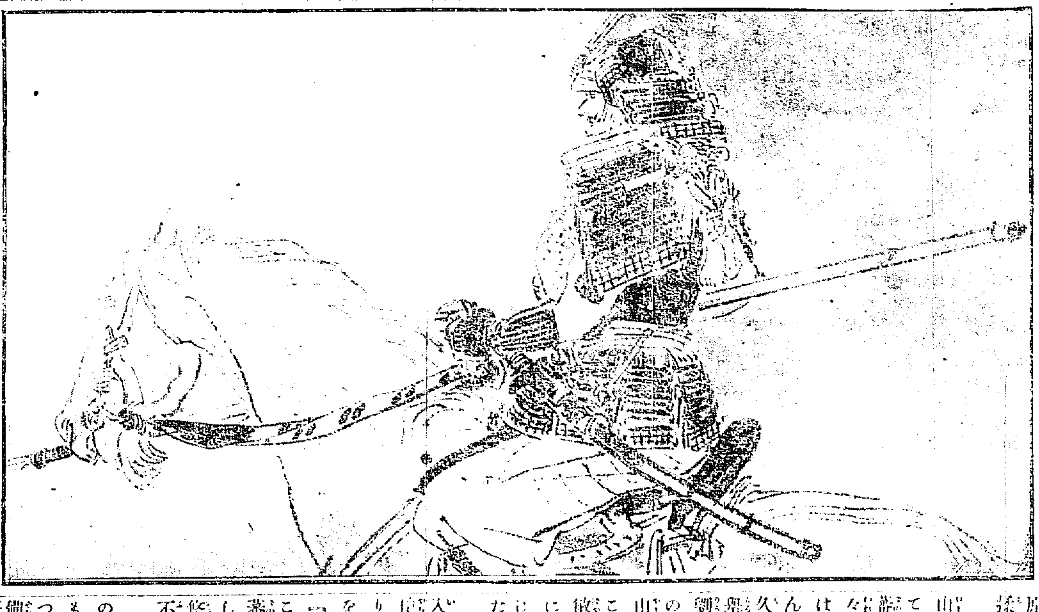
千生瓢 (百)

須藤南翠作 筒井年峰畫

死戰 (三)

同時に勝家は、二千餘騎を以て、前面の敵を試みた。堀久太郎秀政、小川土佐守、木村小隼人、筒井順慶入道等、勝家の動くを見て、鋒々と路次を塞ぎ、弓鐵砲を打ちかけ、射かけ、手繁く戰ふので、蒲谷の勢備の十分なのを知り、前に軍を收めたのであつたが、此間に權六勝久、淺見但馬守の兩人は、無事に二千餘騎を引率して、先手の陣所に急ぐことを得たのであつた。其際であつた、柴田三左衛門尉勝政は、兄玄蕃允盛政に合せんため、兵を纏めて岸傳ひに來る處に、上方勢押し重なつて寄せ來り、備へを段々に立て、透き間もなく挑み戰ふので、次第に味方を撃ち取られて、軍勢も殘り少く相成つた。されど、三左衛門は物に動せぬ大將とて、益々嚴重に備を立て、志津ケ嶽の砦へ引き揚るのであつた。

此時羽柴筑前守の手から、鐵砲を手繁くうちかけては、頻りに慕ひ來るのに會つた。三左衛門はきつと思案して、足場よき地勢の處まで、押に押進み、此處ぞと思ふ時、勝政馬の首を回して、「すは返せや！」と號令した。鐵砲組の者共心得て、筒先揃へて一齊に打ち出す。硝煙曉の雲に棚曳いて、敵も味方も見え分ぬ處を、勝政聲を勵して、「それ、槍を入れよ」と命じた。柴田が手の壯士等、旗の下に身を潜ませて、縱横無礙に突き立てた。其勢ひの猛烈なること、獅子奮迅の有樣であつたので、上方勢は狼狽して、一支へも支へず、崩れ立つて逃げ散つた。勝政は好き程に追撃させて、弓足輕を引き付け、槍脇を射させて人數を纏め、峰廻りを徐々と退き揚げたが、稍や玄蕃允の陣所近くなる程に、志津ケ嶽に楯籠つた桑山修理亮、羽田長門守、黑田官兵衛等、横合より吶と喚いて撃ちかゝつたので、また苦戰に陷つた。



斯くと見た玄蕃允盛政は、例の鐵棒うち振り〳〵、眞先に馬を進めて上方勢の横合より撃ちかゝる。原彥次郎氏治も漸く盛政と一手になつて俱に殺倒し來たり、忽ち一大混戰に陷つた。其時北國勢を討ち破り、討ち破り、近々と押寄せた丹羽五郎左衛門尉長秀は、急ぎ家老江口三郎左衛門、村上次郎右衛門、坂井與右衛門をして、溝口金右衛門、丹羽主税助を、死力を出して防がせたので、佐久間の勢も之れが爲に喰ひ留められ、揉みに揉んで戰つた。丹羽と佐久間の接戰を見るや、桑山羽田は忽ち心に思ふやう、斯くして丹羽に佐久間を任せ、彼の手に玄蕃允の首級を渡す事があつては、我々の武が立たぬ。よし、よし、此弱敵は打棄て、佐久間勢に切りかゝらん、と、其まゝ勝政をうち棄て、佐久間勢に討ちかゝる。原彥次郎その擧動を心憎しと思つて、大身の槍を劉々とひつ扱き、驀々地に突き進むので、原一人に突き立てられて、桑山羽田散々に敗走し、長門守は僅にこの槍尖に死すべかりしを、長秀目敏く之れを認めて、江口三郎右衛門に命じ、横槍を入れさせたので、辛うじて虎口を逃れ、味方の中へ逃れ得たのであつた。原氏治は丹羽が横槍に、憤然として入つた敵を遁したので、丹羽の備へに突いて入り、取り亂し、縱横に暴れ廻り、散々に陣立てを亂して、きつと長秀を睨し乍ら「五郎左衛門殿にこの槍を參らすること、いと易き程の事ねざるが、玄蕃允が行方心許なければ、今日は許し置くぞ」と、呵々と打ち笑つて、悠然として馬を回らしたのは、大膽不敵の擧動であつた。茲にまた堀久太郎等の一手、雲霞の如く襲ひ來たつたので、佐久間原も浮足立ち、三左衛門も、崩れかゝつて、神部兵左衛門が百騎ばかりの備へを立て、嚴重に控へた處へ、三手同時に落ち合うた。

新刊紹介

▲永遠の戰(鹿子木員信氏著) 戰爭は悲慘である而し戰爭は萬物進化の父である此世は共存する限りに於て戰爭は止まぬであらう曾に人生は永遠の戰爭である大和民族よ汝は徐々に劒を鈍からしめざるべからずと呼ぶ著者の宣戰布告である(定價五十錢東京神田區神保町二同文館)

▲子供之友(二月號) 節分、道貫、鰯介戰など面白い繪があります尚附錄としてペンギンと駝鳥の切拔き繪があります(定價十五錢東京市麴町區々谷上り坂數一一四八婦人之友社)

▲農家の福音 農產種苗の本場として有名なる東京瀧野川に於て斯界の老舖として信用厚き同所例所本店にては新刊美麗なる種苗案内書を希望者に無代進呈せらる

◉中風病者の福音 兵庫縣明石町會議員加古忠兵衛(三三)の家庭は中風病系統にて祖父曾父共に腦溢血にて死亡し實母たけ子(七三)が昨年來中風不隨なりしが氏は數年來苦心研究の結果一秘藥を發見し喜びの餘り世の同病者に頒つべしと

兩京去留誌

簡淨疎宕なる山川人物の描寫 明快透徹なる朝鮮側面の觀察

蘇峰學人著

平福百穗、山下鈞、鶴田樸村、柳田謙吉、前川千帆(五氏畫)

本書は著者が朝鮮併合(明治四十三年九月)より今年夏に至る迄、五箇年に亙り屢々東京、京城間往來の際に成りたる文章を收輯したるものなり。著者の兩京間を往來するや其の幾回なるかを知らず。而も其の往來毎に感興愈々新鮮にして、其の秀警の觀察と獨特の靈筆を揮つて兩京間の天然と人事を叙するや、雲烟飛動し人物躍如たるもの固より其の所なり。而して記する所單に兩京に止らず、或は途中過眼の光景を記し或は觸目の偶感を叙す。不用意の文字眞情流露し、而も簡淨疎宕小品の妙を極む。特に『雲養集を讀む』の一文は、朝鮮の碩儒金允植子の人物と文藻を解剖して剩す所なく、『朝鮮統治の要義』は五十頁に亙る長文にして、著者の朝鮮統治に對する經綸を吐露して萬丈の光焰を揚ぐ。加之、平福白穗氏を初め諸畫伯の繪畫は皆實境に臨んで描く所に係り、咄々眞に逼るの妙あり。其他各地の風景、名流の筆蹟等悉く本書の爲に特に撮影し、若しくは著者の爲に特に揮毫せられたるものにして、凡て三十二葉の多きに上り、製版印刷俱に異曲同巧の出來榮を呈し、著者の文章と對照して興味津々たり。裝釘は總クロース上製となし、表紙に朝鮮の古甕を打出し、表題は金文字を以て唐太宗帝書の古拓本より抽出したるものを用ふ。體裁清雅高尚にして眞に几上の清賞に堪へたり。今や節新秋に入りて燈火親む可し、請ふ幸ひに愛讀を賜へ。

記事内容一斑

◉沿道所見 新橋より京城(一…七)◉短信三片 途中歡迎の諸友△朝鮮晴の好天氣△今朝喜色滿南山◉朝鮮各地の觀察◉秋晴一百五十里 飛躍の一轉化△六甲山腹の理想郷△國粹尙ほ存し△奈良一日の清遊、京城愛吾園より△萬戶搗衣聲△北漢山に上るの記(一…三)△石坡亭の雅會△深秋の總督邸、湖南館一部開通△京元線の試乘◉一路寒風吹籍霜 殘春入洛△馬關直行△連絡船中より△從道中△京都より◉一年兩度の櫻花 愛吾廬より啓上△歸路馬關より△山陽山より京城△一年兩度の櫻花△總督府の新居△雨中の大運動會△內地化したる氣候△溶田より大阪△六甲山と須磨◉一年の好季節 母校と東山△桃山御陵參拜△汽車中の立談△一年の好季節△十三日夜の總督邸△奎章閣の職員△海峽航行中より◉愛吾廬雜信◉訪人訪書の旅行 最上の小春日和△仁王山と相對す△全羅△行と滯遊△諸道中に遊ぶ 昌德宮の秋色△龍山陸閣の觀劇△素堂先生と閑談△仁川淡泊の記△佛國寺の標式△都々宮家の饗△京城に於ける天長節△仁王山一周の記△寺內伯の大宴△明治天皇記念祭△十一月三日の夜△松堂主人の招待△小宮氏の茶會△游泳者の餞別△開城に遊ぶの記△由島道中の紅葉△六甲山より京都△時雨の一日△急行的觀楓記△訪書談記◉避熱旅行 京城雜信(其一)△同(其二)△勝入日記△漢江の魚と人◉双京幾往還 關釜連絡船△太祖亭△朴子爵邸午餐△別宴情假期入時◉往來二千日 淡味大阪△中助參の家書△宮島より京城△蕭然離△奉天の京城△往より見る人・關中の苦役△實驗實行の時△高麗板大藏經△往來二千日△前鳴嗚咽吟◉愛吾廬記(子爵金允植記)◉雲養集を讀む(一…三)◉朝鮮統治の要義(一…十)合計十五篇一百三章二百七十四頁

繪畫寫眞目次

◉海峽航行中の著者(三色版)◉在慶州新羅武烈大王碑龜趺(寫眞版)◉北漢山(ジンク版)◉洗劍亭(ジンク版)◉漢江(ジンク版)◉子爵井德榮氏別墅碧樹山莊より南山を望む(三色版)◉愛吾廬に於ける冷淡の生活(寫眞版)◉愛吾廬より仁王山を望む(三色版)◉清涼里(木版)◉昌德宮秘苑(木版)◉山縣總監の自畫自贊(寫眞版)◉朝鮮街(木版)◉明石中將の自畫自贊(寫眞版)◉鮮人の天長節(ジンク版)京城獨立門畔城壁上の大銀杏樹(寫眞版)◉獨立門外廢寺の五輪塔と著者(寫眞版)◉諸名流筆蹟(寫眞版)◉鮮人の家屋(寫眞版)◉鮮婦浣紗(ジンク版)◉野田大塊翁の自畫自贊(寫眞版)◉鮮人の船(寫眞版)◉麻浦(ジンク版)◉太華亭(ジンク版)◉愛吾廬同人庭前の小集(寫眞版)◉子爵金允植氏の德富氏送序の筆蹟(寫眞版)◉故伊藤公自筆南山脚下の詩(寫眞版)◉朝鮮總督官邸に於ける寺內伯(寫眞版)◉故伊藤公南山脚下の詩及び跋語(寫眞版)◉寺內伯書和歌(寫眞版)◉寺內伯書鴨綠江鐵橋落成の詩(寫眞版)◉寺內伯書早發の詩(寫眞版)寺內伯書慶州懷古及び乙卯誕辰の詩(寫眞版)合計三十二種

總クロース上製 函入 定價金壹圓五拾錢

發行所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

最上 醤油 (キハク印)

醤油の撰擇を誤るは年中の損
試み給へ關東唯一の絕品キハク醤油
醸造高全國に冠たり年額六萬二千石
最大の醸造高は最大の購買力に基けり
最大の購買力は品質優越の證

下總國野田町
茂木七郎右衛門醸造
特約店
明治町一丁目
牧野商店
電話二五三番

醇良清酒

大阪府堺市 醸造發賣元 肥塚源次郎
特約販賣店 京城本町二丁目 佐藤牧太郎
同 本町三丁目 明治屋支店

美人
○寄贈春夜見わかぬ ○珍品内容云わぬが花
一三錢切手五枚送れ直送す
大阪市南區瓦屋町四番丁 大賞堂

優等清酒 一鶴
京城本町四丁目電話六五四番 本莊酒店

日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行
相模丸 一月廿八日 正午出帆
竹島丸 二月四日 正午出帆
淡路丸 一月十九日 正午出帆
仁川海岸町一丁目 堀回漕部

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行 立神丸 一月 日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 立神丸 一月 日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 小倉丸 一月 日後五時出帆
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸 一月 日後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行 第三琴平丸 一月 日後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 一月 日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 大眞丸 毎月三日九日十五日廿一日廿六日 午後十時出帆
釜山本町五丁目 本船取扱店 大池回漕部

共同汽船仁川出帆

共同丸 芝罘、大連行 一月十六日後二時入港 一月十八日前九時出帆
第一阪鶴丸 城津、清津、浦鹽行(元山出帆) 月 日後九時出港
第三共同丸 西湖津沿岸各港を經て雄基行(元山出帆) 月 日前八時出帆
同 共同汽船株式會社 本町一丁目(電話一〇八番)
仁川代理店 山下回漕部
元山代理店 田口回漕部
京城取次店 河村運送店

大阪商船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行
溫州丸 一月廿三日 午後五時出帆
天智丸 一月廿六日
汕頭丸 一月 日
○木浦、釜山、長崎行
安東丸 一月廿五日 午後三時出帆
城津丸 一月十八日
○大連行
安東丸 一月廿一日 午後三時出帆
城津丸 一月廿八日
◎大阪直行
天佑丸 一月十八日 後五時出帆
○群山、釜山、橫濱行
釜東丸 一月十九日 午後四時出帆
湖州丸 一月廿七日
○大連直行
潮州丸 一月廿三日 正午出帆
○清津、浦潮行(元山出帆)
北久丸 一月廿六日 午後二時出帆
地久丸 一月十九日
▲大智丸
○上海、基隆、打狗行(大連出帆)
新商丸 一月十八日 午前四時出帆
安平丸 一月廿六日
御注意
仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話一二番二〇番五〇
京城切符發賣所 內國通運會社支店

朝鮮郵船

全羅丸 二月廿一日 釜山發
京畿丸 二月十一日
黃海丸 一月廿七日
成鏡丸 二月六日 釜山發
昌平丸 一月廿四日
鏡城丸 一月廿一日
初丸 一月十八日 元山發
平安丸 一月廿二日
忠清丸 月 日 元山發
永興丸 毎月廿八日 元山發
盛德丸 一月廿二日 釜山發
江陵丸 一月廿一日 釜山發
義陽丸 毎日 (釜山浦項)發
三浦丸 一月廿一日 釜山發
濟州丸 巨濟丸 慶寶丸 毎 釜山發
統營丸
順天丸 三日目毎 木浦發
慶興丸 一月廿三日 木浦發
公州丸 一月廿一日 木浦發
公州丸 一月十八日 木浦發
全州丸 一月廿五日 仁川發
江原丸 一月廿六日 仁川發
麗水丸 一月廿三日 仁川發
晉州丸 一月十八日 仁川發
錦江丸 毎日午前 仁川發
南陽丸
平安丸 一月廿四日 群山發
一月十八日 若松發

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸 一月廿三日後四時出帆
大有丸 一月廿六日後四時出帆
神代丸 一月二十日後四時出帆
蛟龍丸 一月 日後四時出帆
若が代丸
仁川海岸通三丁目 電話五十九番 高杉回漕部

商況

大阪三品 六月限 二三三、七〇 二三四、六〇
大阪期米(十四日) 二三三、四〇 二三四、四〇

仁川米豆取引所

出來高 八千二百石
二月限 七千四百五十石
三月限 二萬七千六百石

仁川穀物協會